

公益社団法人

京都府放射線技師会

THE KYOTO ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

平成 25 年度



公益社団法人

京都府放射線技師会

THE KYOTO ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

平成 25 年度



平成 25 年度近畿地域放射線技師会学術大会

平成 26 年 2 月 16 日に京都府立医科大学看護学舎と附属図書館にて平成 25 年度近畿地域放射線技師会学術大会を開催いたしました。

そこで行われた府民公開講座では、「iPS 細胞から見える未来に向けて」と題して京都大学 iPS 細胞研究所臨床応用研究部門の高橋淳教授に、また、「未来ある子どもたちのために～野球ひじ検診の重要性を中心に～」として、公立南丹病院整形外科医長の琴浦義浩先生にご講演いただきました。

iPS 細胞から見える未来に向けて

京都大学 iPS 細胞研究所 臨床応用研究部門
高橋 淳 教授

私は脳外科医として、所属している京都大学の再生医科学研究所でパーキンソン病に関する研究を行っています。この再生医科学研究所で人間の ES 細胞が日本で初めて作られ、かつ、iPS 細胞もここで誕生しました。再生医科学研究所の敷地に iPS 細胞研究所が作られ、ここでは iPS 細胞の研究と、治療のためとして再生医療の研究、新薬の研究を行っています。

神経とは細胞体から伸びた突起同士が絡み合って集合したもので、その突起と隣の細胞体とはシナプスによって結合しています。シナプスでは情報伝達するために多種の伝達物質をやり取りしています。パーキンソン病では伝達物質のひとつであるドパミンを作製・放出している細胞が減少しています。

脳の働きは、1.ネットワーク、2.化学工場というふたつの働きがあります。神経の病気は情報伝達物質をやり取りしているネットワークが壊れることが原因のひとつであるので、その場合は神経回路の再構築を行うことにより治療できます。伝達物質を作製している化学工場という考え方もでき、ネットワークが正常でも神経伝達物質が多かったり、足らなくなったりすると病気の発症になります。その場合は伝達物質の分泌を調整することが治療になります。

パーキンソン病では中脳黒質という場所にあるドパミン神経細胞が減少することにより、手足のふるえやこわばり、運動低下などが生じます。重症になると寝返りもできなくなることがあります。多くは 50 歳以降で発症し、全国で約 14 万人の患者さんがいます。治療法としては減少しているドパミンを薬で補うのが基本です。この治療はパーキンソン病の初期では劇的に効果がありますが、進行してくると薬が効きにくくなります。その場合は脳外科にて脳内に電極を入れ、電氣的にドパミンの生成を調節することもできますが、これもやはり、病状が進むと効きにくくなります。

脳神経内のドパミン神経が健康時の 4 分の 1 になると、パーキンソン病の症状が現れます。つまり症状が発生した時点では、ドパミンがすでに 4 分の 1 になっているということです。ドパミンは投薬によって飲んでも脳神経には直接は届きません。ドパミンの材料である L-ドパは脳神経に届くので、これを服用するとドパミンが増えます。しかし、脳内に残っているドパミン細胞がドパミンを作製するので、ドパミン細胞がなくなってしまうと、いくら材料である L-ドパを飲んでも、ドパミンは作成されません。そういった場合、ドパミンと同じような働きをする、ドパミンアゴニストは脳神経に届くので、これを服用することにより、ドパミンが増えたような結果になり、症状が改善します。しかし、パーキンソン病で減少するのは中脳黒質のドパミン神経細胞であり、ドパミンアゴニストを服用すると脳全

体に作用し、ドパミンが足りているところでドパミンアゴニストが作用すると、吐き気、食欲低下、幻覚、妄想などの症状が出現する副作用があります。

中脳黒質のドパミン細胞が減少することがパーキンソン病の根本原因なので、ドパミン細胞を再構築する方法が最近はなされています。中脳黒質にドパミン神経を移植することは非常に難しいので、ドパミンを伝達している先にある線条体に直接、ドパミン神経細胞を移植します。そうすることにより移植細胞がドパミンを作り、L-ドパを服用すると効果が出やすく、新しい神経回路を作ることが期待できます。

ドパミン細胞移植には胎児細胞移植と ES・iPS 細胞移植があります。胎児細胞移植は欧米にて 1980 年代から 400 例以上が行われており、中軽症例で症状の改善がみられ、10 年以上効果の続く症例も報告されていますが、ドパミンを受け取る受容体に問題があるほど症状がひどいと、この移植でも効果がありません。また、1 度の移植には 5~10 体の多数の胎児を集めることが必要で、胎児を使うという倫理面の問題もあります。移植後に勝手に身体が動くという症状もあり、これは移植細胞の純度の問題の可能性もあります。このことから人工的にドパミン神経細胞を作製できる、幹細胞利用の研究が進んできました。

幹細胞とは臓器になる前の細胞で、多分化能（複数の違った種類の細胞に分化する能力）と自己複製能（新たな幹細胞を生み出す能力）を持っています。受精卵にある内部細胞塊を取り出し、培養することで ES 細胞ができます。この ES 細胞は理論的に身体の全ての臓器になることができます。しかし、受精卵から取り出すために倫理面の問題があります。ES 細胞を受精卵以外から作成することに成功したのが人工多能性幹細胞である iPS 細胞です。マウスの皮膚細胞からの iPS 作成が 2006 年、人の iPS 細胞作製が 2007 年に成功しています。当初あった問題も克服されており、現在では採血した血球から安全な iPS 細胞の作製が成功しており、昨年（2013 年）に人由来の iPS 細胞の臨床応用が国に認められました。

iPS 細胞は培養で限りなく増やすことができ、必要な細胞（例えばドパミン神経細胞）だけを誘導、選別できる可能性があり、自分の細胞から iPS 細胞を作り、目的の臓器を移植するという、自家移植が可能です。iPS 細胞から必要な細胞を作り出す方法としては、ある臓器のみを増殖させるのではなく、目的臓器以外の臓器になるのを防いで、目的臓器である神経幹細胞を作ります。そうしてできた神経幹細胞から、ドパミン神経細胞を誘導して取り出します。

iPS 細胞研究所では、そうした過程で作ったドパミン神経細胞を人工的にパーキンソン病を誘発したカニクイザルの脳に移植して、行動評価、画像（PET、MRI）評価、免疫組織学的評価を観察します。MRI での画像評価としては、ドパミン神経細胞を脳に移植してから 1 ヶ月ごとに 12 ヶ月観察し、移植片の大きさを計測します。移植片は数か月までは成長しますが、6 カ月程度で飽和します。ここで判明したのが、移植片の段階で、分化してしまったドパミン神経細胞は、移植した後は成長しにくいことがわかってきました。分化途中のドパミン神経細胞を移植すると、上限はありますが、移植した後も成長を続けます。そして、この移植細胞片には悪性所見はないことが確認されていますし、万が一腫瘍性増殖が起こったとしても、ガンマナイフや摘出手術が行えます。こういった万が一の場合に、対処の手段があることは非常に重要です。ドパミン神経細胞を移植されたカニクイザルの行動を分析すると、分化した神経細胞を移植された場合は、神経症状スコアが改善しています。その個体の脳を解剖してみると、たくさんのドパミン神経が定着しているのも、確認できました。人体では解剖ができませんので、そのためにサルで^[18F]DOPA を使った PET 検査を行うと、移植した部分に一致して、^[18F]DOPA の集積があり、かつ、集積が多いほど行動改善率が高いことも確認されています。

以上の研究結果から、ヒト ES 細胞由来の神経前駆細胞は霊長類脳内において、ドパミン

神経として機能しうる、と結論づけられます。

ES、iPS 細胞移植の問題点としては、腫瘍形成の可能性があると、ドパミン神経細胞の純化が困難であることです。そのためには、移植する前に分化していない ES、iPS 細胞を取り除き、ドパミン神経細胞だけを選び取る技術が必要です。そのための技術として我々が行っているのが Cell sorting です。それによって、大量培養が可能になり、腫瘍性増殖がみられない、ドパミン神経細胞が高率に生着し、セロトニン神経細胞が少なく不随意運動の可能性が少なくなります。

ここで自家移植と他家移植の違いを説明します。自家移植は自分の細胞を自分に移植することです。これにより、免疫反応がなく、感染の危険性も極めて低くなります。他家移植は免疫抑制が必要で、未知病原体感染の可能性があり、しかし、自家移植は患者毎に細胞のチェックが必要で、その患者さんの iPS 細胞が正常に機能するか不明です。他家移植の場合は移植前の細胞状態で準備可能であり、機能のよい細胞を前もって準備できるという利点があります。また、自家移植ということは、パーキンソン病の患者さんから作成した iPS 細胞を自分に移植することになり、これがどこまで効果があるのか、まだ、未知数です。このように自家移植と他家移植は利点と欠点があるので、ケースバイケースだと思います。

京大病院では人体での iPS 細胞からのドパミン神経細胞の自家移植を来年度中には行えるように準備を進めているところです。また、他家移植の実施もできればと考えています。

まとめとして、1)パーキンソン病のより根本的な治療のためには、細胞補充療法が必要。2)ヒト ES、iPS 細胞からドパミン神経細胞の誘導は可能。3)効率的な移植を行うにはドパミン神経細胞の純度を上げる技術が必要。4)iPS 細胞の出現によって、自分の細胞で神経細胞移植ができる可能性がでてきた。という段階です。

以上で私の講演は終わりです。

未来ある子どもたちのために

～野球ひじ検診の重要性を中心に～

公立南丹病院 整形外科医長

琴浦 義浩 先生

「けんしん」には、「検診」と「健診」がありますが、この二つの意味は異なります。「検診」とは、特定の疾患について罹っているかどうか調べることであり、「健診」とは、身体にどこか悪いところがないか、検査して調べるということです。似た言葉にメディカルチェックがありますが、これは、スポーツ選手の身体特性を調べることです。野球肘検診は、野球による肘関節障害の早期発見、特に離断性骨軟骨炎の発見を目的に行っています。スポーツ検診がなぜ必要なのかというと、肘が痛くてもちょっと休めばいい、根性が足りないだけだ、成長痛なのではないか、スポーツしていたら時々痛みがあっても当然である、といった素人的な意見ではなく、医学的な診断を行うためです。

子どもと大人の違いで一番大きな個所は骨です。例えば太ももの大腿骨では、大人は一つの骨ですが、子どもでは骨端と骨幹と骨端に分かれています。それぞれは成長線という軟骨でつながっています。この骨端は子どもでは全身のいたるところ、特に関節には必ず存在します。子どもの骨は未成熟で発育途上（完成していない）なので、弱くて傷つきやすいものです。また、骨の成長が筋・腱の成長より先行するので、骨に付随する筋が伸ばされ、筋・腱の緊張が高くなり、柔軟性が低下します。成長期の子どもはこうした大人にはない骨と

筋・腱の特徴があり、過度のウェイトトレーニングや間違ったフォームでは筋肉、骨、軟骨、腱を痛めてしまいます。

傷害は外傷（ケガ）と障害（故障）の総称です。「ケガ」とは不注意、不測の事態などのため身体を傷つけることであり、「故障」とは身体に不調が生じて円滑に動かせなくなることです。ケガは急に大きな外力で起こることであり、故障は少しずつ繰り返す力で起こります。つまり故障とは間違った方法やフォームで長期間身体を使うことにより起こるので、防ぐことができるということです。

スポーツの語源を調べると、ラテン語の気晴らしをする、休養する、楽しむ、遊ぶといった意味のある **deportare** から来ているようですので、スポーツで身体を壊すということは本末転倒であると思います。

「成長痛」に関してはインターネットで調べるだけでも、様々な情報が氾濫しています。実際に私が調べてみると、子どもの手足の痛み、スポーツに伴う痛み、成長する時の痛み、治りやすいので放置してよい、身体の弱い子に生じやすい、筋力を強くすると成長痛は起きない、といった記事がありました。医学的に「成長痛」とは、1.日中、痛みもなく元気に走り回っている。2.夕方から夜中に下肢、特に膝周辺の痛みを 30 分から 1 時間訴える。3.大声で泣くこともあるが、翌日になるとケロッとしている。4.痛みの部位が変わったり、忘れてたりする。5.可動域制限や熱感、腫脹がない。6.好発部位は膝周辺で下腿、足首、大腿、股関節周囲である。7.好発年齢は 2～7 歳で、男子は 5 歳、女子は 4 歳にピークがある。8.画像検査、血液検査で異常がない。8.注意すべき鑑別診断として、骨・軟骨腫瘍、白血病、骨端症、骨髄炎がある。といった特徴があります。

文献としては 1823 年のフランスで最初の記載がされ、その後多数の文献・医学書に書かれています。1979 年に「正常な成長過程では激しい痛みを伴う成長は存在しない」と発表されました。今日ではこれが一番大事な理解すべきことになっています。成長痛の背景として、子どもの性格（神経質）、保護者の性格や干渉度（父親はのんき、母親が神経質）、家庭環境の変化（兄弟ができた、母親が働き始めた）などがあり、対応としては、安心させることが大事であり、スキンシップを行えば症状は治まります。つまり、成長痛とは、小児期の夜間に起こる原因不明の下肢痛で、社会的・心理的要因による身体表現性障害ということで、器質的・機能的な異常を除外した後に診断されるべき症状です。成長期のスポーツ障害とは、成長痛ではなく、骨端に生じた「軟骨骨障害」です。

野球での代表的なスポーツ障害に「橈骨遠位骨端線障害」があります。痛みのある手首の成長線が健側に比べて幅が広がります。例えば器械体操を行っている中学生の場合、普段は体重のかからない手首に荷重がかかり、発症することがありますが、3 か月安静にすれば治ります。橈骨遠位骨端線障害は成長障害を併発することがあり、放置すると、左右の前腕の長さが異なってくることもあります。

サッカー少年の例をご紹介します。11 歳の男の子がボールを蹴るときに膝の下の方が痛い、痛みのある部位が腫れて膨隆しているという患者さんを診たことがあります。指導者と近医は成長痛だという判断だったのでプレーを続けていたら、実はオスグット・シュラッター病でした。膝の屈曲やジャンプにより脛骨結節に付着している膝蓋靭帯が、付着している脛骨粗面を引きはがした病状です。つまり、スポーツ障害だったのです。これはスポーツをやめることにより、3 年で正常になりました。

肩の症例として上腕骨近位骨端線障害があります。少年野球の投手で、投球により成長線の軟骨層が厚くなっています。これも、スポーツを止めることにより 3 ヶ月で正常になりました。

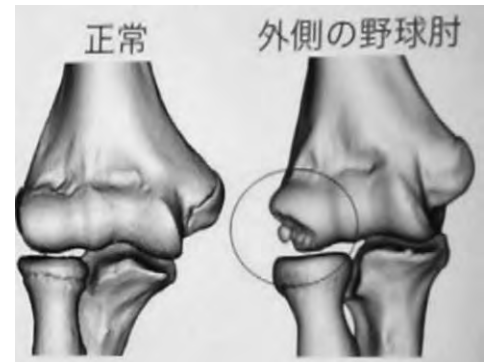
腰椎分離症というのは、体操とかで身体をひねったり、無理な体勢を繰り返したりすると

起こる、腰椎の椎弓部分が骨折した状態です。これは何度も繰り返して椎弓に負荷をかけて起こる、疲労骨折です。症状が進むと、椎体そのものが前方に滑る、すべり症になります。こうなると足のしびれ、麻痺が起こってきます。通常の少年期に起こった骨折は数週間で治るものですが、疲労骨折に関しては、治るのに数か月かかります。なので、「病院に行くとスポーツしてはいけないと言われる」、という素人考えが指導者の間でも言われていますが、これは仕方のない事です。

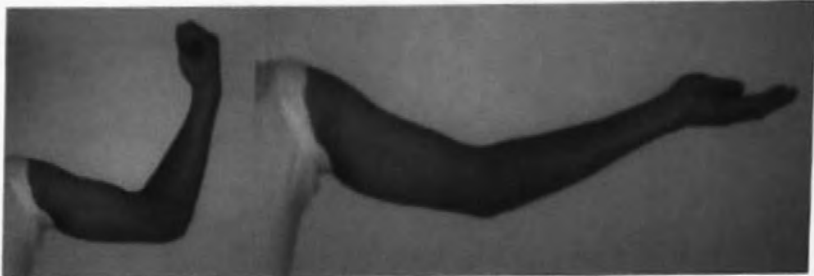
成長期のスポーツ障害は全身の関節や骨端におこり得ることを知っておいてください。骨軟骨障害は、短期的には痛みによるパフォーマンスの低下があり、長期的には関節や脊髄の変形・痛みがおこり、骨の成長障害になります。過度の練習は危険なのです。

私自身、少年期は足の病気で2年ほど入院しており、その後も、高校生まで歩く程度しか運動はできませんでした。その時は運動できないのに他人の応援をするという、スポーツ観戦という概念が信じられませんでした。現在ではサイクリングを趣味にしているほど回復していますが、スポーツができない少年の思いは十分にわかっているつもりです。なので、スポーツ障害を予防することが非常に重要です。

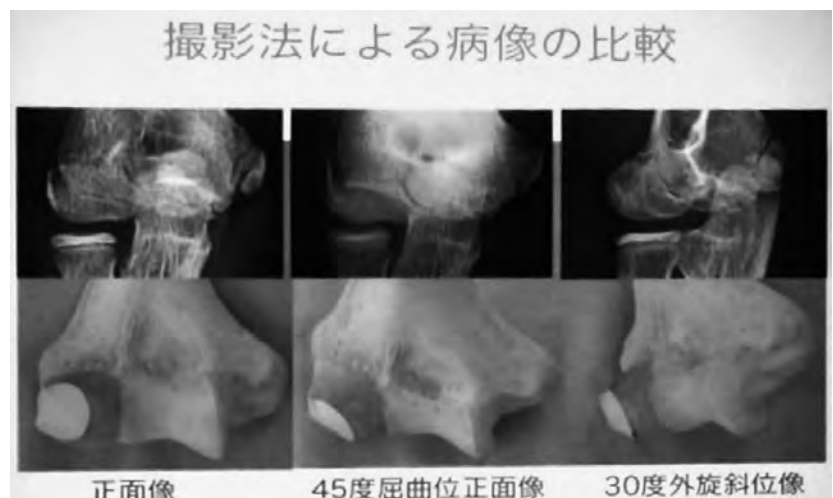
写真は肘のCT画像ですが、これでもわかるように正常では丸くなっている肘の外側がくぼんでいます。離断性骨軟骨炎は、初期には症状がないことが多く、痛みを訴えてから受診しても治療には時間がかかる場合が多いです。時には手術が必要なこともあります。病状が進んでから治療を開始した場合は完治しないケースもあります。再生医療が話題ですが、現状では軟骨の再生医療には成功していません。なので、悪化した離断性骨軟骨炎は、現代医療では完治できない病気です。



左図は離断性骨軟骨炎を放置した大人の腕ですが、左が最大屈曲位、右が最大伸展位です。明らかに屈曲と伸展ができていません。こうなると自分の顔に手が届きません。少年期にこうした障害がおこると、心にも



大きな負担がかかり、円形脱毛症を併発している少年もいます。野球肘検診では約2%の割合で離断性骨軟骨炎が見つかると言われていますが、離断性骨軟骨炎の初期では症状がありません。X線写真ではわかりにくいのですが、左右を比べると違いがはっきりします。進行期では分離期と言われ、時々痛む、曲げ伸ばしが制限されてきます。X線写真では骨のくぼみが明らかに見て取れるようになります。終末期では骨の遊離がおこり、関節ネズミとして症状が強くなり、関節症変化が現れます。X



線写真では遊離した骨がわかります。

X線写真の撮影法としては、初期の段階では、肘の正面像ではわかりにくいのですが、45度屈曲位正面像や30度外旋斜位像で明瞭的にわかります。離断性骨軟骨炎は肘関節の前方外側におこりますので、45度屈曲したり、30度外旋すると、他の骨と重ならず撮影することができます。

私が診た初期の離断性骨軟骨炎の患者は上肢の負荷制限をしてもらって13ヶ月で完治しました。下半身の関節が固いことや、投球フォームが悪いことも原因しているため、その間にストレッチやコンディションを整えると、再発することはありません。初期の段階で離断性骨軟骨炎が分かっても放置すると、骨の成長が終わったころには遊離骨が完全に変形した状態で肘関節内に癒着します。こうなると一生症状が治りません。早期発見と早期治療が非常に重要になります。

野球肘検診で見つけた離断性骨軟骨炎は初期段階が95%、進行期が3%、終末期が2%の割合で見つかっています。症状が出てから来院する患者の場合、初期が30%、進行期が26%、終末期が44%と、手遅れな状態なのが現状です。なので、いかに野球肘検診が重要かわかります。

野球肘検診では、まずアンケートを行い、理学所見を調べます。これは肘の可動域、圧痛、ストレス痛を調べます。そして最近流行している超音波検査も行います。その段階で異常があった場合、来院してもらい、X線検査、CT、MR検査などを行います。

アンケートの結果と実際に離断性骨軟骨炎の診断にはほとんど関連はないのですが、唯一関連があるのが、過去の肘痛です。離断性骨軟骨炎の少年は過去の肘痛経験者が78%だったのに対し、そうでない少年は32%でした。なので、離断性骨軟骨炎の少年のほとんどは、過去に肘痛を経験しているということです。離断性骨軟骨炎と理学所見にも、明らかな違いはありませんでした。そこで超音波検査です。最近の超音波装置はコンパクトなものがあり、持ち運びが可能なため、こうした検診の現場に導入できるようになりました。自覚症状も理学所見もなく、超音波検査で肘小頭の異常が指摘される場合も多々あります。そうした場合は投球制限期間も短く、半年で投球再開できます。

野球肘検診の先駆けである徳島では、7月に行われる小学生の大きな野球大会会場の一角で野球肘検診を行っています。その大会に参加している少年の8~9割が検診に参加します。3日間の大会で2,000~3,000人の少年が集まりますので、大変なのですが、徳島県中の野球少年の検診が行えるので、効率がとってもいいです。私が行っている京都北部では指導者講習会も行っています。さらに検診のスタッフへの講習会、野球少年への肘・肩のセルフチェック講習も行っています。

子どもが実際に離断性骨軟骨炎になっていても自覚症状がない場合がありますので、その場合は親や監督が子どもの変化に気づき、来院し、医師が適切な診断・治療を行って初めて治癒できます。自分の肘痛を隠していたり、親・監督や医師が適切に判断できなければ治癒できず、障害が残ることになります。なので検診で早期発見し、専門の医師を紹介し、適切な治療を施せられるようにするのが検診の目的です。

平成 25 年度 事業計画

公益社団法人 京都府放射線技師会 会長 轟 秀彦

1. 総括

平成 24 年度の事業につきましては、会長就任 7 年目の年ではありましたが会員諸氏の協力を頂き無事終えることができました。

今年度も引き続き生涯教育セミナー「基礎技術講習会」をはじめ各種セミナーや被曝・機器管理講習会を積極的に開催します。又、学術研修会では公開講座を含め放射線技師の府民への関わりをさらに強くアピールしていきます。

さらに、看護大学や看護専門学校に講師としておもむき、放射線の正しい知識を身につけて頂き、各病院で放射線検査がスムーズに行えるよう指導したいと思えます。

各地域に対しては中学校をはじめ高等学校で「放射線とは何」と題して講義が行えるように関係機関と協議の場を持つよう努力します。

会員の減少という問題にも、日本診療放射線技師会と協力をしながらいろいろな事業に取り組み、対策を講じて行きます。今年度も京都府放射線技師会（各地方技師会も含め）と日本診療放射線技師会が一体となり事業を進めます。その一環として生涯教育活動ポイントとして統一され、地方で行う事業もこれに含まれることになりました。このように、会員はもちろんのこと府民及び診療放射線技師にとってよりよい技師会を目指すのは勿論のこと事業の内容も府民の目線に立ったものを目指します。

さらに、今年は法人設立 30 周年および公益社団法人取得記念式典を開催予定であります。会員の皆様ならびに関係機関の方が多く参加して頂きますようお願いいたします。

す。

以上のように厳しい状況ではありますが鋭意努力をして各事業の計画を出来るだけ早い時期から会員にお知らせし、参加して頂けるよう、また、会員一人一人の参加が活力ですので、ご協力のほどお願いします。

2. 社会事業（広報・渉外・組織・調査）

(1) 例年通り、開催予定の「第 40 回くらしと健康展」へ主催者団体の一員として積極的に参加し、京都府民に放射線医療の啓蒙と放射線を利用した検査と治療に関わる悩みの相談や診療放射線技師の業務内容の理解と存在を直接アピールしていきます。『放射線なんでも相談コーナー』では、相談内容は従来の医療被曝だけでなく、今なお不安に思われている原発事故による放射能汚染問題など、最新の問題や客観的知識を一般の人々に広報・啓蒙する必要があります。さらに、府民の皆様に広く放射線技師業務を理解していただくために、放射線管理士委員会にも啓蒙活動を依頼・連携し、情報委員会の協力を得てホームページ上に逐次関連事項を掲載し、当法人の存在及び活動を会員だけでなく一般の人々にも社会性や公益性を案内し広く情報公開していきます。他には、他団体との連携を強化し、さまざまな機会をとおして講演活動を積極的に行います。

(2) 関連団体事業にも積極的に協力し、さらに、行政（京都府）が開催します放射線（原子力関係）に関する安全訓練・講習会などにも診療放射線技師の派遣を行い、地位向上を目指します。また、無資格者によ

る放射線技師業務の防止については、関係機関（京都府・京都市・京都府医師会・京都府歯科医師会・京都私立病院協会）に要望書を提出し、コンプライアンス重視の社会風潮の中で、京都府市民が安心して放射線診療を受けられるよう協力を求めています。

(3)「第48回京都病院学会」については、今年度も実行委員・座長を送り積極的に協力し、会員が放射線技術向上への研究発表ができる場として利用することにより、他団体との交流の場とします。

組織調査活動について、各会員施設及び学校へ新卒者の京都府下への就職先リスト調査を依頼し、厚生委員会と協力して「フレッシュ診療放射線技師の集い」を開催すると同時に技師会への入会を推進し、会員間の求心力の向上、各地区委員の活性化に向けて全地区委員会および学遊会を開催し、委員の意見集約を行い技師会の事業推進への協力を促します。さらに、会員への調査事業を活発にするとともに、各地区委員会へ三役とともに参加をして問題点を洗い出し把握して活性化に役立てます。各地区の班編成を調査し再編成を含めて、地区活動が活発に行えるようにします。

そして、若い会員の意見の導入を積極的に行い、会の活性化に勤め、調査に関しては今会員が何を求め、何を知りたいかを把握した上で事業を推進していきます。

3. 研修事業（学術・放射線管理）

学術活動について、京都府放射線技師会の理念であります診療放射線技師の役割の充実と資質の向上を目指し、会員が望む生涯学習教育および会員相互の情報交換のできる研修会さらには府民に認められる研修会を基本に各関係団体の協力も得ながら行います。今年度も引き続き（公社）日本診療放射線技師会共催の基礎講習会等の開催（他府県との合同）もできるだけ行ないま

す。月例研修会を基本とするが、内容は専門的なものから一般的な話題も取り入れ、府民向けの一般公開講座も行います。今年度は当会主催の近畿地域放射線技師学術大会を開催し、多くの府民に参加して頂けるよう努力します。これらの研修会は惹いては府民市民に還元されるものと考えます。

また、チーム医療の一員として、静脈注射抜針講習会を今年から開催します。

(1) 京都市内会場

特に開催月は決めず、土曜日を基本に年6回程度とする。

但し、時間的余裕（3時間）のある研修会や夜間、日曜日開催も考える。

(2) 両丹地区会場

開催期は限定せず、研修会を行なう。

(3) 日本診療放射線技師会基礎講習会等の生涯教育・認定講習会を開催

(4) 近畿地域放射線技師学術大会（平成26年2月）開催

(5) その他

その都度開催予定

上級救命講習会に関しては京都市消防局が行う上級救命講習を受講し、その技術の習得・維持に努めてほしい。

*研修会は会員無料、非会員は有料とする。

管理士活動について、管理士会の事業の推進を図るとともに、学術・広報・組織と連携し、「くらしと健康展」や講習会（研修）計画、放射線に関する実態調査など教育・編集・調査の三分野を充実させます。さらに、原子力関係の講習会や訓練・緊急被曝フォーラムなどに積極的に参加し、他府県の放射線管理士部会と交流も行います。京都医療科学大学と協力し、線量計の校正に関する講習会を開催し、京都府下の各病院の被曝災害体制にも積極的に取り組みます。

4. 情報事業（編集・情報）

編集活動について、「京放技ニュース」は基本毎月1日発行としたい。「京放技ニュー

ス」は会員に対して最新情報を提供・会員相互の意見交換の一つでありますので、積極的な記事をたくさん投稿していただきたい。また、各委員会との連携を強め、充実した紙面と長期計画の掲載をし、予定が立てやすいように配慮します。また、「京都府放射線技師会雑誌」については年度末に1回発行しますが、昨年と同様に内容は府民をはじめ誰が読んでも参考になるものとし、さらに、これらのデジタル化も視野に入れて検討していきます。

情報活動については、京放技・日放技関係の記事をインターネットを通じて広報し、会員に対して迅速な情報提供を行い、会員の交流や教育を深めることを目的とし会員からの投稿記事の掲載を行うなどさらに整備し、各種団体とのリンクを積極的に行います。さらに、会員が認定されている放射線管理士、放射線機器管理士、医用画像情報精度管理士、臨床実習指導教員、CT・MR 検査専門認定などを更新し、引き続き公表していきます。

京都府民に対して公益法人としての役割を十分に果たすようホームページでは府民向けの資料を整理するとともに、府民の方が積極的に活用して頂けるよう変更していきます。また、公開講座をはじめ各種の放射線に関連するイベントの案内を行い、組織調査・広報渉外・放射線管理士ならびに放射線機器管理士と共に、様々な情報提供を行ない、府民の皆様に向けた医療被曝や医療機器コーナーを充実させます。さらに、放射線に関する質問に関しても活用して頂けるよう広報し、正確かつ迅速に答えられるようにし、診療放射線技師の業務を理解していただく為、各委員会と連携を深めることに努めます。

5. 厚生事業

厚生活動について、会員相互の親睦を図るための重要な事業であることから、懇親

を深める事業を計画します。また、フレッシュ診療放射線技師の集い、新年会は例年通り開催します。さらに、今年は法人設立30周年および公益社団法人取得記念式典を開催します。

6. その他

(1) 第31回全国診療放射線技師総合学術大会（京都開催）

平成27年11月開催予定ではあるが、準備委員会及び実行委員会を立ち上げる。

(2) 表彰関係

昨年度の実績を踏まえて、個人（会員）・団体に対する表彰を積極的に行います。

平成 25 年度収支予算書（収支ベース）

平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで

科目	予算額	前年度予算額	差異	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①基本財産運用収入				
基本財産運用収入	300	300	0	
②受取会費収入	5,645,000	4,650,000	995,000	
正会員会費収入	4,920,000	4,100,000	820,000	会員 472 名 新入会 20 名 25,000 円×29 社
賛助会員会費収入	725,000	550,000	175,000	
③事業収入				
広告料収入	850,000	790,000	60,000	
④受取補助金収入	1,590,000			
日本放射線技師会補助金収入	1,500,000	0	1,500,000	近畿地域学術大会
地方公共団体補助金収入	90,000	90,000	0	
⑤受取負担金収入				
日本放射線技師会負担金収入	50,000	50,000	0	
⑥寄付金収入				
寄付金収入	10,000	10,000	0	
⑦雑収入	1,500	2,000	△ 500	
受取利息	500	1,000	△ 500	
雑収入	1,000	1,000	0	
⑧特定資産取崩収入	500,000	0	500,000	
記念事業積立金	500,000	0	500,000	
事業活動収入合計 (A)	8,646,800	5,592,300	3,054,500	
2. 事業活動支出				
①事業費	6,591,980	4,319,000	2,272,980	
印刷製本費	1,350,000	1,280,000	70,000	
通信運搬費	436,500	386,000	50,500	
通信運搬費	40,000	19,500	20,500	
連絡費	350,000	327,000	23,000	
IT 関連費	40,000	31,000	9,000	
電話料	6,500	8,500	△ 2,000	
賃借料				
会場費	400,000	450,000	△ 50,000	
諸謝金				
講師費	250,000	250,000	0	
近畿地域学術大	1,500,000		1,500,000	
印刷製本費	350,000		350,000	
賃借料	200,000		200,000	
諸謝金	500,000		500,000	
会議費	200,000		200,000	
旅費交通費	100,000		100,000	
消耗品費	100,000		100,000	
雑費	50,000		50,000	
公益法人取得 30 周年及新公益移行記念式典	500,000		500,000	
印刷製本費	80,000		80,000	
賃借料	200,000		200,000	
諸謝金	150,000		150,000	
会議費	15,000		15,000	
旅費交通費	30,000		30,000	
消耗品費	20,000		20,000	
雑費	5,000		5,000	
福利厚生費	395,000	395,000	0	
調査研究費	70,000	70,000	0	
図書費	5,000	5,000	0	
福利厚生費	280,000	280,000	0	
渉外費（慶弔）	40,000	40,000	0	

会議費		208,500	142,500	66,000	
	学術	20,000	20,000	0	
	編集	20,000	20,000	0	
	広報渉外	7,500	7,500	0	
	組織調査	20,000	15,000	5,000	
	管理士会	15,000	5,000	10,000	
	厚生	5,000	5,000	0	
	情報	36,000	10,000	26,000	
	特別	25,000	10,000	15,000	選管 受賞者選考
	地区（7地区）	50,000	50,000	0	
	平成27年度全国学術大会準備委員会	10,000	0	10,000	
旅費交通費		365,500	377,500	△ 12,000	
	学術	40,000	40,000	0	
	編集	20,000	25,000	△ 5,000	
	広報渉外	7,500	7,500	0	
	組織調査	40,000	45,000	△ 5,000	
	管理士会	35,000	40,000	△ 5,000	
	厚生	15,000	15,000	0	
	情報	18,000	40,000	△ 22,000	
	特別	45,000	40,000	5,000	選管 受賞者選考
	地区（7地区）	125,000	125,000	0	
	平成27年度全国学術大会準備委員会	20,000	0	20,000	
広報渉外		90,000	100,000	△ 10,000	
	くらしと健康展	70,000	70,000	0	
	関連団体	20,000	30,000	△ 10,000	
事業雑費		5,000	5,000	0	
給料手当		486,480	417,000	69,480	
	給料通勤手当費	480,000	410,000	70,000	
	法定福利費	6,480	7,000	△ 520	
租税公課費					
	諸税	60,000	37,000	23,000	
受信費					
	電話料	45,000	41,000	4,000	
消耗品費		100,000	83,000	17,000	
	消耗品	70,000	68,000	2,000	
	印刷費	30,000	15,000	15,000	
光熱水料費		56,000	52,500	3,500	
消耗什器備品費		15,000	15,000	0	
リース費		47,000	42,500	4,500	
支払負担金		12,000	18,000	△ 6,000	
委託費					
	事務所管理費2階	258,000	215,000	43,000	
保険料					
	火災保険料	12,000	12,000	0	
②管理費		2,030,560	1,956,700	73,860	
給料手当		527,020	528,000	△ 980	
	給料通勤手当費	520,000	520,000	0	
	法定福利費	7,020	8,000	△ 980	
会議費		314,500	153,000	161,500	
	理事会費	138,000	65,500	72,500	
	各委員会費	71,500	17,500	54,000	
	役員活動費	40,000	20,000	20,000	
	総会開催費	15,000	15,000	0	
	総会準備費	50,000	35,000	15,000	
旅費交通費		585,500	683,000	△ 97,500	
	理事会旅費	342,000	360,000	△ 18,000	
	各委員会旅費	143,500	195,000	△ 51,500	
	役員活動旅費	100,000	128,000	△ 28,000	
租税公課費					
	諸税	30,000	30,000	0	

支払負担金		7,500	15,000	△ 7,500	
受信費					
	電話料	70,000	69,500	500	
消耗品費		120,000	118,500	1,500	
	消耗品費	70,000	69,000	1,000	
	通信費	50,000	49,500	500	
光熱水料費		84,000	72,000	12,000	
消耗什器備品費		15,000	15,000	0	
リース費		47,000	50,000	△ 3,000	
委託費					
	事務所管理費 1階	140,040	116,700	23,340	
保険料					
	火災保険	10,000	11,000	△ 1,000	
渉外費		60,000	60,000	0	
管理雑費		20,000	35,000	△ 15,000	
③特定預金積立金		0	0	0	
	特別事業	0	0	0	
	備品購入	0	0	0	
	事務所整備	0	0	0	
	マンション改修	0	0	0	
④記念事業積立預金		0	0	0	
	創立 70 周年記念事業	0	0	0	
事業活動支出合計 (B)		8,622,540	6,275,700	2,346,840	
事業活動収支差額 (A) - (B)		24,260	△ 683,400	707,660	
II 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入		0	0	0	
2. 投資活動支出					
	固定資産取得費	0	0	0	
	事務所購入費	0	0	0	
	什器備品購入費	0	0	0	
投資活動支出合計 (C)		0	0	0	
投資活動収支差額		0	0	0	
III 財務活動収支の部					
	財務活動収入	0	0	0	
	財務活動支出	0	0	0	
	財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費 (D)		24,260	10,272	13,988	
当期収支差額 (A)-(B)-(C)-(D)		0	△ 693,672	693,672	
前期繰越収支差額		596,136	1,289,808	△ 693,672	
次期繰越収支差額		596,136	596,136	0	

(注) 借入金限度額 1,000,000 円

債務負担額 10,000,000 円

平成 25 年度正味財産増減予算書

平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで

公益社団法人 京都府放射線技師会

(単位：円)

科目	公 1	他 1	法人会計	平成 25 年度 合計予算額	平成 24 年度 合計予算額	増減
I 一般正味財産増減の部						
(1) 経常収益						
基本財産運用益	0	0	300	300	300	0
基本財産受取配当額	0	0	300	300	300	0
受取会費	2,822,500	610,000	2,212,500	5,645,000	4,650,000	995,000
正会員会費収入	2,460,000	610,000	2,212,500	5,645,000	4,650,000	995,000

賛助会員会費収入	362,500	0	362,500	725,000	550,000	175,000
事業収益	850,000	0	0	850,000	790,000	60,000
広告料収入	850,20	0		850,000	790,000	60,000
受取補助金等	1,590,000	0	0	1,590,000	90,000	1,500,000
日本診療放射線技師会補助金収入	1,500,000	0	0	1,500,000	0	1,500,000
京都府補助金収入	90,000	0	0	90,000	90,000	0
受取負担金収入			50,000	50,000	50,000	0
日本診療放射線技師会負担金収入			50,000	50,000	50,000	0
受取寄付金	10,000	0	0	10,000	10,000	0
寄付金収入	10,000	0	0	10,000	10,000	0
特定資産取崩収入	215,000	215,000	70,000	500,000	0	500,000
記念事業積立金取崩収入	215,000	215,000	70,000	500,000	0	500,000
雑収入	0	0	1,500	1,500	2,000	△ 500
受取利息	0	0	500	500	1,000	△ 500
雑収入	0	0	1,000	1,000	1,000	0
経常収益計	5,487,500	825,000	2,334,300	8,646,800	5,592,300	3,054,500
(2) 経常費用						
事業費	5,717,400	921,080		6,638,480	4,426,250	2,212,230
印刷製本費	1,740,000	40,000		1,780,000	1,280,000	500,500
通信運搬費	700,000	100,000		800,000	450,000	350,000
賃借料	825,000	75,000		900,000	250,000	650,000
諸謝金	0	395,000		395,000	395,000	0
福利厚生	306,000	102,500		408,000	142,500	266,000
会議費	350,000	115,000		465,000	377,500	87,500
旅費交通費	350,000	115,000		465,000	377,500	87,500
広報渉外費	90,000			90,000	100,000	△ 10,000
事業雑費	55,000			55,000	5,000	50,000
給与手当	438,000	48,480		486,480	417,000	69,480
租税公課費	54,000	6,000		60,000	37,000	23,000
受信費	45,000			45,000	41,000	4,000
消耗品費	200,000			200,000	83,000	117,000
光熱水料費	50,400	5,600		56,000	52,500	3,500
消耗什器備品費	15,000			15,000	15,000	0
リース費	47,000			47,000	42,500	4,500
支払負担金	0	12,000		12,000	18,000	△ 6,000
委託費	236,500	21,500		258,000	215,000	43,000
保険料	12,000			12,000	12,000	0
減価償却費	117,000	0		117,000	10,250	9,750
管理費			2,261,681	2,261,681	2,102,360	159,321
給与手当			527,020	527,020	528,000	△ 980
会議費			329,500	329,500	135,000	194,500
旅費交通費			615,500	615,500	683,000	△ 67,500
租税公課費			30,000	30,000	30,000	0
支払負担金			7,500	7,500	15,000	△ 7,500
受信費			70,000	70,000	69,500	500
消耗品費			140,000	140,000	118,500	21,500
光熱水料費			84,000	84,000	7,000	12,000
消耗什器備品費			15,000	15,000	15,000	0
リース費			47,000	47,000	50,000	△ 3,000
委託費			140,040	140,040	116,700	23,340
保険料			10,000	10,000	11,000	△ 1,000
渉外費			60,000	60,000	60,000	0
管理雑費			25,000	25,000	35,000	△ 10,000
減価償却費			161,121	161,121	132,000	29,121
経常費用計	5,717,400	921,080	2,261,681	8,900,161	6,528,610	2,371,551
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 229,90	△ 69,080	72,619	△ 253,361	△ 936,310	682,949



***新発売**
オムニパーク 350注シリンジ
45mL(血管・CT用)

非イオン性造影剤

処方せん医薬品*

薬価基準収載



オムニパーク®

OMNIPAQUE®

※注意—医師等の処方せんにより使用すること

日本薬局方イオヘキソール注射液(バイアル製剤)

- オムニパーク300注50mL・100mL(尿路・血管用)
- オムニパーク350注50mL(尿路・血管用)
- オムニパーク350注100mL(血管用)

イオヘキソール注(バイアル製剤)

- オムニパーク240注20mL(尿路・血管用)
- オムニパーク300注20mL(尿路・血管用)
- オムニパーク350注20mL(尿路・血管用)
- オムニパーク180注10mL(脳槽・脊髄用)
- オムニパーク240注10mL(脳槽・脊髄用)
- オムニパーク300注10mL(脊髄用)

イオヘキソール注(プラスチックボトル製剤)

- オムニパーク140注50mL・220mL(血管用)
- オムニパーク240注50mL・100mL(尿路・血管用)
- オムニパーク300注50mL・100mL(尿路・血管用)
- オムニパーク300注150mL(血管用)
- オムニパーク350注50mL(尿路・血管用)
- オムニパーク350注100mL(血管用)

イオヘキソール注

- オムニパーク240注シリンジ100mL(尿路・血管・CT用)
- オムニパーク300注シリンジ50mL(尿路・CT用)
- オムニパーク300注シリンジ80mL・100mL(尿路・血管・CT用)
- オムニパーク300注シリンジ110mL・125mL・150mL(CT用)
- オムニパーク350注シリンジ45mL*・70mL・100mL(血管・CT用)

★効能・効果、用法・用量、警告、禁忌および使用上の注意等の詳細につきましては、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元(資料請求先)



Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社

東京都中央区日本橋本町3-5-1

lopamiron[®]
lopamidol



非イオン性尿路・血管造影剤〈イオパミドール注射液〉

イオパミロン[®]注

150	300	370
300シリンジ	370シリンジ	

処方せん医薬品（注意—医師等の処方せんにより使用すること）

薬価基準収載

■効能・効果、用法・用量、警告・禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

本剤の商標は  イタリアの許諾に基づく

(2011年11月作成)



資料請求先
バイエル薬品株式会社
大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001
<http://www.bayer.co.jp/byl>

IOP-11-4011

サーベイメータ・電子ポケット線量計

HITACHI
Inspire the Next

ALOKA
illuminate the change

放射能汚染はないか、放射線のレベルはどのくらいか、
どれだけ放射線を受けたか、それらは測定器で見ることができます。
目的に応じた、豊富な機器をご用意しております。

サーベイメータ

●表面汚染測定用

β 線測定用

TGS-146B

TCS-319H

TCS-316H

TPS-313

γ 線測定用

TCS-173C

α 線測定用

TCS-232B

α ・ β 線測定用

TCS-362

●線量当量率測定用

γ (∞)線測定用

TCS-171B

TGS-142

ICS-331B

ICS-323C

TCS-172B

PDR-111

μ 線測定用

TPS-451C

電子ポケット線量計

γ (∞)線測定用

PDM-122B

α 線測定用

PDM-127B

μ 線測定用

PDM-313

警報機能付

PDM-222B

PDM-227B

PDM-222VB

ADM-353B

 日立アロカメディカル株式会社

〒181-8622 東京都三鷹市牟礼6-22-1 計測システム営業部 0422-45-5131

www.hitachi-aloka.co.jp

札幌営業所 (011)722-2205 六ヶ所営業所 (0175)71-0811 仙台支店 (022)346-9520 新潟営業所 (025)241-8171 水戸支店 (029)255-1811 福島営業所 (024)555-6401
 静岡営業所 (054)238-0167 名古屋営業所 (052)805-2660 金沢営業所 (076)240-8033 敦賀営業所 (0770)25-4551 大阪支店 (06)4861-4888 松山営業所 (089)969-6811
 高松営業所 (087)866-6012 広島支店 (082)292-0019 松江営業所 (0852)25-5649 鳥栖営業所 (0942)87-9111

ケアストリーム
DRX-Revolution Mobile X-Ray システム

Carestream



移動X線検査の概念を変える。

MOBILITY REDEFINED.
INNOVATION ON THE MOVE.

ケアストリームヘルス株式会社

東 京 〒135-0041 東京都江東区冬木11番17号 イシマビル ☎(03)5646-2500

札 幌 ☎(011)252-8072 名古屋 ☎(0561)64-2755 大 阪 ☎(06)6534-7090 福 岡 ☎(092)413-8460

<http://www.carestream.jp>

SIEMENS



SOMATOM Perspective

Answers for life.

“時代が求めた新概念” 64スライスCT

シーメンスでは、常に必要な改良・開発を繰り返し、“最良な臨床結果”を得るためのソリューションを追求しています。昨今の多様化する医療環境に最適化することは重要であると考えており、数値スペックだけにとらわれず、適合性や優しさにもフォーカスしています。高性能なスキャンスペックを維持したまま、設置性や快適性・容易さなどを高め、さらに経済性も考慮した設計で、守備範囲を拡大したCTスキャナが登場しました。

www.siemens.co.jp/healthcare/



KONICA MINOLTA

Giving Shape to Ideas

急速充電
30分

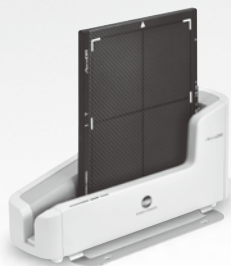
「C R から D R へ」

完遂の最後のピース。

JIS規格
10×12サイズ

世界最軽量^{※1}
1.7kg

AeroDRにJIS規格適合10×12インチ(四切)サイズが登場。1.7kgの超軽量設計は、整形領域においてハンドリングしやすく、CsI採用の高いDQE性能は、小児撮影に期待される低線量撮影を実現し、リチウムイオンキャパシタの採用が、ワイヤレスタイプながらも多くの撮影を可能にするなど、AeroDRの特徴をそのまま高次元で発揮することのできる四切サイズモデルです。



WIRELESS DIGITAL RADIOGRAPHY SYSTEM

AeroDR
10×12" type

製造販売元: コニカミノルタ株式会社 販売元: コニカミノルタヘルスケア株式会社 ※1:2013年4月現在(10×12サイズ) 「デジタルラジオグラフィーAeroDR」製造販売認証番号:225ABBZX00011000 163-0432 東京都新宿区西新宿2-1-1 TEL (03) 5323-7525 <http://www.konicaminolta.jp/healthcare>

TOSHIBA
Leading Innovation >>>



*Vantage Titan*TM 3T

Everyday Clinical Use

Multi-Phase Transmission 腹部や骨盤領域などで発生する画像ムラを解消

Open Bore 71cm より多くの患者さんに最先端の3T検査を提供

Atlas SPEEDERTM 最大128ch受信により、検査スループットの向上

PianissimoTM 検査時の騒音を静音化技術Pianissimo機構で低減



東芝メディカルシステムズ株式会社

本社 〒324-8550 栃木県大田原市下石上1385番地

<http://www.toshiba-medical.co.jp>



超電導磁石式全身用MR装置 東芝MRI Vantage Titan 3T MRT-3010
認証番号: 222ADBZX00004000


smart Network Console

AZE Phoenix

Lexus network

次に来るもの



単なるビューワでもなくワークステーションでもない、斬新なコンセプトから生まれた
ネットワーク型 読影診断コンソール **AZE Phoenix Lexus network**

快適な読影とスピーディーな解析処理を融合させて
次なるステージを、この手に

Viewer Phoenix
Lexus
network Workstation



株式会社 AZE (アゼ)

本社：〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-8-1 丸の内トラストタワー N 館 13F
TEL：03-3212-7721 FAX：03-3212-7722 URL：<http://www.aze.co.jp/>

Iomeron[®]



処方せん医薬品：
注意—医師等の処方せんにより使用すること

非イオン性造影剤

【薬価基準収載】

イオメロン[®] 300注 20mL/50mL/100mL
350注 20mL/50mL/100mL
400注 20mL/50mL/100mL
〈イオメプロール注射液〉



処方せん医薬品：
注意—医師等の処方せんにより使用すること

非イオン性造影剤

【薬価基準収載】

イオメロン[®] 300注 シリンジ 50mL/75mL/100mL
350注 シリンジ 50mL/75mL/100mL/135mL
〈イオメプロール注射液〉

ProHance[®]

処方せん医薬品：
注意—医師等の処方せんにより使用すること

非イオン性MRI用造影剤 【薬価基準収載】

プロハンス[®] 静注 5mL/10mL/15mL/20mL
〈ガドテリドール注射液〉



処方せん医薬品：
注意—医師等の処方せんにより使用すること

非イオン性MRI用造影剤 【薬価基準収載】

プロハンス[®] 静注シリンジ 13mL/17mL
〈ガドテリドール注射液〉



- 効能・効果、用法・用量及び警告、禁忌、原則禁忌を含む
使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製品情報お問い合わせ先：

エーザイ株式会社 お客様ホットライン
フリーダイヤル 0120-419-497 9～18時(土、日、祝日 9～17時)

製造販売元



ブラッコ・エーザイ株式会社
東京都文京区大塚3-11-6

販売元



エーザイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10

提携先



ブラッコ スイス株式会社

CM1210M01

平成 25 年度 事業の総括

会長 轟 英彦

1. 【総括】

平成 25 年度は、各地域や行政及び関連機関に積極的に対話を求め、(公社)京都府放射線技師会が府民の皆様にご貢献出来るような方向性を捉え、「信頼・感謝そして未来」に向かって事業に反映すべく努めてきました。これはひとえに、会員一人一人が自覚を持ち、技師会活動を通して職場への還元によるところが大きいと自負しています。

この 1 年、診療放射線技師会全体を見てみると、生涯学習システムならびに会員システムでは多大なご迷惑をおかけしました。(公社)日本診療放射線技師会と関連団体との協調、特に(公社)日本放射線技術学会との関係を通じて合同セミナーが行われました。

また、環境省からの「放射線被曝個別相談センター」事業、被災者健康支援連絡協議会への参加、診療補助の拡大に伴う全国的な統一講習会を実施しました。さらに、各種アンケート調査を実施し、業務拡大を視野に入れた取り組みを行ってきました。

その中で、(公社)日本診療放射線技師会あるいは近畿各府県技師会と協力しながら、すべての診療放射線技師を対象に研修会を実施し、平成 26 年には法律化される予定の「静脈注射抜針講習会(針刺しを除く)」も共催で 2 回開催いたしました。(公社)京都府放射線技師会主催の事業としては、本年度最大事業である「公益社団法人京都府放射線技師会法人設立 30 周年及び公益社団法人取得記念式典」、「平成 25 年度近畿地域放射線技師会学術大会」が開催されました。また、京都府原子力災害委員会の一員となり、亀岡市総合防災訓練や福知山市等で開催された、京都府原子力防災訓練にも参加し、京都府民や行政機関に当会の存在と活動を認識して頂いたことは公益社団法人としての役割を十分に果たしたことと思います。さらに、平成 27 年度「日本診療放射線技師総合学術大会」が京都で開催されることが決定したことは非常に重要なことと認識しております。

最後になりますが、昨今の技師会を取り巻く環境は厳しい状況下ではありますが、各委員を始め執行部一同鋭意努力を惜しまず、事業を推進してきました。これは公益職能団体の使命であると感じており、今後とも会員の皆様にご理解ご協力を賜り、府民の皆様にご認知していただける技師会を目指します。

平成 25 年度の事業についてはこれを総括とし

ますが、詳細については以下のとおりです。

2. 【社会事業】(広報・渉外・組織調査)

(1) 広報渉外事業は、平成 25 年 10 月 20 日に医師会館にて「第 40 回くらしと健康展」が開催され、例年通り主催団体の一員として参加し、今年は未だに福島原発事故による放射線汚染の被曝の不安や食物の心配の相談もありました。放射線コーナーではパネル展示およびパンフレットの配布を行い、今回は診療放射線技師の職能を案内したパンフレットを配布いたしました。当コーナーには 63 名の来場者があり総来場者に対する割合が 15% (昨年は 10%) と過去最高を記録し、コミュニケーションを通して、放射線の安全性・有益性・専門性を理解してもらい、診療放射線技師という名称と職業をアピールできたことは大きな収穫でありました。

(2) 渉外関係については、(財)京都市健康づくり協会理事会への参画、関西友好 4 団体新年互礼会・京都私立病院協会新年会などに出席し交流を深めました。第 48 回京都病院学会が池坊短期大学で開催され、例年通り実行委員・座長・スライド係の担当者を派遣し運営の一端を担いました。また、京都府市民が安心して放射線診療が受けられるよう、また医療被曝低減の推進をしていくためにも無資格者による診療放射線業務の防止を目指し、関係医療機関・団体に要望書を持参提出し協力の申し入れを行いました。

(3) 組織調査事業は例年通り、各学校・各施設へ新卒者就職先(京都への)の調査を行い「フレッシュ診療放射線技師の集い」への案内送付を行うと同時に入会勧誘の資料とし、本年は 26 名の新入会員がありました。6 月 22 日「全地区委員会」を開催し、技師会への意見・要望等の集約を行い事業推進への協力、また、組織調査委員長・会長・副会長が積極的に各地区委員会に出務し、意見収集や技師会の動きなどを説明し活動活性化へ向けて協力の要請をしました。会員減少の対策として、近畿各技師会と協力し入会勧誘の資料(パンフレット)を作成して各教育養成機関に送り、卒業生に配布し技師会入会促進を行ないました。

3. 【研修事業】(学術・放射線管理)

(1) 学術研修事業は、研修会については月例研

修会（3回開催）をはじめ内容も含めて会員の参加を推進し、両丹地区においては、春・夏・秋の3回研修会を開催しました。夏季研修については、平成25年9月8日（日）福知山市民病院で「静脈注射（針刺しを除く）講習会」を開催しました。また、平成25年11月17日（日）京都第二赤十字病院において、「静脈注射（針刺しを除く）講習会」を開催しました。平成26年2月16日（日）は「信頼・感謝そして未来」をテーマとして特別講演・教育講演をはじめ、京都府・京都市・医師会・看護協会・京都新聞社等の後援・協力で平成25年度近畿地域放射線技師会学術大会（府民公開講座）を開催しました。

(2) 管理士事業については「くらしと健康展」で放射線相談員として府民の放射線被曝低減と不安の解消に大きく貢献し、京都府主催の催しや放射線（原子力関係）に関する安全訓練や講習会にも参加、診療放射線技師の地位向上に寄与しました。平成25年8月31日（土）は平成25年度亀岡市総合防災訓練（今年から原子力防災訓練が追加）に参加し放射線汚染に対するサーベイ活動訓練を行ないました。また、平成26年1月25日（土）には京都府原子力総合防災訓練（福知山市）が今回初めて京都府主催で開催されました。この訓練に京都府から当技師会に参加要請があり公益法人として府民の皆様に役立てる事業に参加しました。今後も継続的に訓練はある予定で今後も当技師会は参加していきます。平成25年9月7日（土）には「診断領域線量計の校正について」の講習および実習を開催し今後の校正維持継続を図るため定期的な開催を京都医療科学大学との提携で行うことを非公開ながら決定しました。また、昨年から引き続き継続して行っている京都医療科学大学との共同研究である医療施設の電離箱式サーベイメーターの校正研究も進めて行きました。近隣地区との連携として、近畿2府4県の枠組みの中で各々の管理士会と積極的に意見交換を行い、今回で第7回目となる近畿地域学術研修会の中での近畿地区ネットワーク会議を開催し、各地域の活動や今後の連携活動の関わり方についての意見交換を行い討論いたしました。

4. 【情報事業】（編集・情報）

(1) 編集事業は「京放技ニュース」の発刊について、例年通り毎月発行し会員に対して情報を提供すると共に内容の充実を図る目的でいろいろと工夫を重ね、年報改め「京都府放射線技師会雑誌」として府民にも読んでいただ

ける内容のものを発刊しました。

(2) 情報事業は、常にホームページの充実を進めると共に一般の方に医用放射線・医療被曝について理解をされるよう啓蒙すると同時に、内容の充実やメールによる質問・問い合わせに迅速かつ適切に対応し、また、ホームページを新しくリフレッシュしました。会員に対しては、日本診療放射線技師会・京都府放射線技師会のさまざまな情報の提供を正確に伝えるよう努め、さらに、公益法人として事業計画、予算書、役員名簿、定款、事業報告、決算などを掲載するようにしました。

5. 【厚生事業】

厚生事業としては、今年度も近畿野球大会では京都府は5位に終わりました。第3回学遊会を開催し、23名の参加で楽しい親睦となりました。囲碁については「月例会」をはじめ「京都府大会（近畿大会予選）」も行い、平成26年1月19日（日）開催された「第25回近畿地域放射線技師会囲碁大会」で去年の雪辱を果たし優勝いたしました。

「フレッシュ診療放射線技師の集い」は、平成25年6月22日（土）ホテルセントノーム京都にてフレッシュ技師28名・会員40名・学生3名の参加にて盛況に開催されました。10月に「公益社団法人京都府放射線技師会法人設立30周年及び公益社団法人取得記念式典」を行いましたので、新年会は中止いたしました。

6. 【その他】

(1) 表彰については、今年度も会員に対し、知事表彰、日本診療放射線技師会会長感謝状、京都府放射線技師会会長表彰および感謝状、日本診療放射線技師会勤続50年・30年表彰がされました。

(2) 「公益社団法人京都府放射線技師会法人設立30周年及び公益社団法人取得記念式典」がルビノ京都堀川で、「平成25年度近畿地域放射線技師会学術大会」が京都府立医科大学附属図書館他で開催されました。

(3) 第31回日本診療放射線技師学術大会（レントゲン発見120周年記念）が京都で開催されるに当たり、視察や学術実行委員会が開催されました。（京都国際会議場）

最後になりましたが、平成25年度の事業が概ね遂行できましたことは、各理事・委員および会員各位のご協力とご理解の賜物と感謝いたします。

社会事業

広報・渉外委員長 新井 喬

平成 25 年度の広報・渉外活動は、『第 48 回京都病院学会』、『第 40 回くらしと健康展』について委員長の新井が担当責任者として事業を遂行し、各事業の遂行の協力を三浦健一委員（第二岡本総合病院）、渡里弘委員（京都九条病院）の両名にお願いしました。

委員長は、公益社団法人京都府放射線技師会の代表とし、各事業の実行委員会および準備委員会に出席し、また、各事業の開催には出務して他の医療団体や関連団体との交流を深め意見を交わし、府民に対しては医療用放射線の利用に関する相談や啓発活動をとおして、各事業の公益性・社会性と共に関心放射線技師の職名や職能も啓蒙しました。また、各事業の当日の運営には日常業務が忙しい中、各会員に協力をお願いしました。

各事業報告

■第 48 回京都病院学会

本年度も、平成 25 年 6 月 9 日（日）池坊短期大学（烏丸四条）において『第 48 回京都病院学会』が開催されました。本学会は昭和 40 年から始まり、京都府下の病院で構成される京都府病院協会と京都私立病院協会が共催し、京都府・京都市・京都府医師会の後援をいただき、すべての医療職種と介護職種の方々を参加対象として地域に密着した手作りの運営の特色ある学会として毎年開催されています。今回は、会場を旧医師会館から池坊短期大学に変更してからの 3 回目の学会となりました。

学会への準備・開催に向けて、実行委員会は寒い時季の 2 月から始まり 6 月まで計 5 回と回を重ね、各職能団体の代表者が忙しい日常業務の合間を縫い一同に会し開催されました。

今回は変更した会場での 3 回目の開催のこともあり、マイク音声の混線などの前回時の問題点を中心に委員会で何度も検討し、無事な運営・開催を目指して準備をしました。

本会も主催団体の一員として、放射線部門の演題について 4 名の座長を選出し、各会場の PC プロジェクターなどの操作を担当する準備委員として 10 名と実行委員 1 名の計 11 名が運営にあたりました。今回の総演題数は、453 演題と多数の演題数のため、会場を 8 会場に増やし所定の時間内に全演題の発表は終わるようにしました。なお、放射線部門の演題数は 29 演題となり、

昨年より 1 演題の増加となりました。

演題発表においては、演者には①演題発表用の USB フラッシュメモリの使用②動画とタイマー設定などは禁止③会場への受付および入室時間厳守などのルールをお願いし、順調な学会運営や効率化を目指しましたが、やはり小さなトラブルは見受けました。今回は 3 回目の学会会場のこともあり、前回と比べ会場の進行・運営はより順調に遂行しました。

今回のメインテーマを「災害への対応」とし、弘前大学大学院医学研究科胸部心臓血管外科学講座教授 福田幾夫先生の基調講演「災害に強い病院を作る：東日本大震災の経験から」に続いて要望演題部門 8 演題の後にシンポジウムが行われました。シンポジウムでは、災害を実際に経験された方でないといけない、多くの示唆に富む話となり、また部署・職種ごとによく検討された災害への対処方法の報告もありました。

また、特別講演では、「スポーツとは何か？～民主主義からしか生まれえない反暴力の文化～」と題してスポーツ&音楽評論家の玉木正之氏のお話しでした。講演内容は、最初は殺しあうくらいの暴力的な競技が、民主的な手続きを経てスポーツへと改変していき、一方では一国がオリンピックを開催するには経済的戦略や政治手腕が非常に重要であることを話してくれました。

今回も会場が満席になるという反省を踏まえ、1 階に特設ライブ会場を設営し対応しました。アンケート調査では、両講演の感想は非常に良好でした。どの会場でも演題発表時には、立ち見が出るほどの満員となり、学会は大盛況のうちに終わりました。

本年の実行/準備委員・演者も含めた学会の総参加者数は、2,056 名（前年度 2,092 名より 36 名減少）となり連続して 2,000 名を越えました。しかし、数年来の不景気により、この学会への広告収入は例年より減少してきており、厳しい運営を余儀なくさせられています。

なお、座長を担当された 4 名の方は以下の方々です。

多富 仁文（三菱京都病院）、山根 稔教（公立南丹病院）、四丸 真俊（宇多野病院）、木村 保（大島病院）（敬称略）

■第 40 回くらしと健康展

平成 25 年 10 月 20 日（日）午前 10 時～午後 4 時に京都府医師会館にて、「第 40 回くらしと健康展」が『目指そう！こころとからだの健康』をテーマとして開催されました。（入場料は無料、入場事前予約制）

今回は、昨年に引き続き単独開催の 3 回目の開催となりました。実行委員会は、6 月に各主催団体の代表が一同に会して集まり、計 3 回開催しました。

放射線コーナーでは昨年と同様に、パネル展示、パンフレット配布、放射線相談コーナー、年間被ばく推測チェックなどを行いました。相談コーナーでは放射線管理士会の方々に協力していただき、カウンセリングの内容の充実を図りました。又、計算ソフトを用いた《年間被ばく推測チェックコーナー》では、来場者に 1 年間の撮影回数・内容を申告してもらい自然被ばくを含めた数値を算出し、医療用放射線を利用した検査の安全性を理解してもらいました。今回も、病気・検査に関するパンフレットを見て質問する人が多くいましたが、事前から興味や関心を持って質問や相談することを考えて来る人はかなり少なくなっています。相談コーナーでは被ばく関連の相談・質問のほか、認知症などのパンフレットを見て病気や検査内容に関する問い合わせも多く、また、未だに福島原発事故の放射能汚染による被ばくの問い合わせもありました。

今回は当日の雨天と入場事前予約制のためか、総来場者数は 421 名となり前回より減少しましたが、本会コーナーへは 63 名の来場者となり前回より若干増加しました。

日本診療放射線技師会が作製し提供された診療放射線技師の仕事を紹介する小冊子を来場者への配布も好評でした。

このようなイベントをとおして 1 人でも多くの人が、放射線や検査に対する不安や心配を解消して、積極的に治療や検査をしてもらえたらと思います。

最後に、残念ながらこの事業は、毎年京都府の見直し検討の対象事業のため、年々、規模や予算は縮小してきています。

なお、出務していただいた会員は以下の方々です。

山根 稔教（公立南丹病院）、中島 智也（田辺中央病院）、安藤 博敏（自宅）（敬称略）

■無資格者対策

医療用放射線を用いた検査による被ばくにつきましては、「くらしと健康展」などにて一般の方々からの数多くの不安や質問をよく聞きます。ピンクリボン運動による乳がん検診におけるマンモグラフィー受検の啓蒙活動、「がん対策基本法」施行による《がんの放射線治療の推進》などにより、行政による医療における放射線利用の取り組みは以前より増進してきています。

また、CT/MR の画像診断は医療だけにとどまらず Ai 診断の分野にも重用され、その社会的な有意義性も高くなっています。

そして、医療用放射線機器はより高度化・専門化となり、その取り扱いについては専門職である私たち診療放射線技師が、受検者が安心して検査を受けられるように機器を慎重かつ丁寧に扱うべきものであり、一方、使用管理責任者は、【診療放射線技師法】に制定されている法定独占業務を尊重し、当然に法令遵守をしなければならないことです。昨年 11 月に神戸の施設にて診療放射線技師法違反の報道を耳にしましたが、甚だ遺憾に思いました。

また、私たち診療放射線技師が最新の知識や技術を日常業務に還元することは、公益性・社会性の活動を伴う一つの側面とも言えます。

もし、無資格者が医療用放射線を取り扱い一般の方々に照射することは、受検者の検査の有効性の不利益になる可能性は大きく、現実的に無資格者が安全・安心の医療の確保と維持を保証することは不可能です。

無資格者による医療用放射線の取り扱いは、《医療被ばくの正当性・適正化・低減化》を謳っている日本診療放射線技師会および当会の立場から、また、〈1〉コンプライアンス重視の社会的意義 〈2〉【診療放射線技師法】違反の観点からも見過ごすことのできないことです。

本会としても、機会のある度に関係諸団体、監督官庁に協力を要請しており、本年度も昨年度と同様に、平成 26 年 2 月 1 日付で京都府健康福祉部、京都市保健福祉局、京都府医師会、京都府歯科医師会、京都私立病院協会宛に『無資格者による診療放射線技師業務の防止に関する要望』書を各会長名宛にて発刊し、提出をいたしました。

（要望書については別添付の参考資料を参照）

平成 26 年 2 月 1 日

京都市保健福祉局・京都私立病院協会
京都府健康福祉部・京都府歯科医師会
京都府医師会

×× 殿

公益社団法人 京都府放射線技師会
会長 轟 英彦

「無資格者による診療放射線技師業務の防止に関する要望」

平素は、当技師会の年間を通しての公益性・社会性のある事業活動ならびに運営につきまして、格別の理解・協力と御高誼を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、標記の件につきましては、貴職におかれましても既に御高配のことと存じます。

当会は、医療における診療放射線技師業務の技術向上と職能の資質改善に日々邁進し、当会員を中心とした私たち診療放射線技師は、医療用放射線の最新の知識や技術を取得し、機器を駆使して日常業務において、良質で診断価値の高い画像を臨床現場に提供しており、日常的に公益性と社会性のある業務に携わり、幾ばくかの社会貢献を果たしているとも言えます。

そして、この業務は国が制定する〔診療放射線技師法〕による法定独占業務であります。しかし、コンプライアンス重視の社会情勢の中で、昨年 11 月に一部の医療機関におきまして、〔診療放射線技師法〕に違反する行為が未だに報道されることは、甚だ残念な思いであります。

「無資格者による診療放射線技師業務」は当然に違法行為であり、無資格者の本人だけではなくその使用管理者も責任を問われる可能性は十分にあります。当然、画像診断の情報量不足や被ばく線量低減の観点から、一般の方々に対して不利益を被る可能性も考えられます。

昨今、医療用機器の操作はより簡便化になっており、その反面、被ばく線量の低減、最良な撮影条件や経験と知識を要する最適な画像処理技術、そしてそのような施設・設備環境を整備・維持するための安全管理および運營業務は無資格者には不可能なことです。

また、平成 22 年 4 月 30 日付の厚労省からの通知では、「チーム医療の推進について」言及し、【①画像診断における読影の補助を行うこと ②放射線検査等に関する説明・相談を行うことに診療放射線技師を積極的に活用すること】が記されています。その通知を受けて、診療放射線技師の拡充業務の 1 つとして読影力を高めて画像を検証し読影補助をすることで早期診断と治療に繋がり、強いては国民の健康増進に寄与すると考えます。さらに、各検査の画像診断の有用性は医療だけにとどまらず、CT/MR 検査による Ai 診断は死因究明にも重用され、社会的有意義性も高くなっています。従って、当会は安全・安心で質の高い診療放射線業務を確保し継続する責務があります。その状況の中で、私たち診療放射線技師は業務内容の高度化・専門化に自ら対応し、各学会・専門機構を中心に主な分野の専門技師認定制度も拡充しています。平成 24 年度の診療報酬改定において、CT/MR/治療の診療報酬の加算の要件の 1 つに一専従の診療放射線技師も明記され、高度で専門性の高い診療放射線技師には診療報酬の観点からも評価されることになりました。

ゆえに、「無資格者による診療放射線技師業務」は、放射線検査の有益性だけではなく医療界及び一般社会への公益性・公共性を毀損する可能性があるのは過言ではありません。当会としましては、そのような状況が少しでも見受けられるのに対して、「無資格者による診療放射線技師業務」の違法行為を看過することはできません。

貴職にはご多忙のことと存じますが、上記の要望をご賢察のうえ関連下の施設に対して、〔診療放射線技師法〕の周知・理解と、この法律を遵守して頂き、「無資格者による診療放射線技師業務」の根滅を期するため、更なる幾らかのご配慮を賜りたく、本年も重ねてお願い申し上げます。

研修・研究事業

学術委員長 原口 隆志

平成 25 年度の研修事業としましては、市内地域での定例研修会を 3 回開催し、また近畿地域学術大会は京都府において開催いたしました。さらに、日放技主催近畿地域基礎講習会における各モダリティの講師推薦依頼や静脈注射（針刺しを除く）講習会等の事業に携わってきました。

事業報告に際し京都府放射線技師会役員、並びに会員各位の多大なご協力に感謝の意を表します。

学術事業の主な内容として以下に示します。

まず、25 年度での一回目の研修会として、5 月に 549 回研修会を開催し、6 月には全地区委員会とフレッシュ診療放射線技師の集いと同日に 550 回研修会を開催しており、7 月末には第 551 回研修会を夜間開催にて学生も参加し、発表と講演を行いました。

9 月には両丹地区での夏季研修会に代わり、静脈注射（針刺しを除く）講習会を京都府北部地域での受講を出来るだけ可能とする為に福知山市民病院にて開催しました。その際、両丹地区の役員や会員のご協力には感謝しております。

11 月には京都市内の第二赤十字病院にて静脈注射（針刺しを除く）講習会を開催しました。

2 月には近畿地域放射線技師会学術大会が開催され、学術大会として盛大に開催出来ました。2 年前より研修会から学術大会へと規模が大きくなったことにより、開催までの準備に多大な時間と労力を費やしましたが、多くの関係者のご協力の下、無事終了できたことについて感謝

いたしております。

27 年度につきましては京都府による全国大会開催であり、準備をすでにすすめており、合わせて頑張っていきたいと思っています。

以上今年度の総括とします。

平成 26 年度につきましても、さらに会員にとって有意義な研修会の開催を目指していきたいと思っております。皆様のご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

1. 平成 25 年度委員構成

【両丹地区】

山添 三知生 京都府立医科大学附属
北部医療センター

【市内担当】

北村 真 明治鍼灸大学付属病院
丸山 久喜 向日回生病院
後藤 正 済生会京都府病院
林 浩二 洛和会音羽病院
森永 泉美 大阪医科大学付属病院
四丸 真俊 宇多野病院
原口 隆志 宇治武田病院

2. 研修会場と開催日時

会場：京都アスニー、(株) エーザイ京都支店会議室、京都府立医科大学図書館ホール

日時：第 2 土曜日（もしくは日祭日）午後、もしくは平日夜間

以下、研修会一覧と詳細を掲載します。

■平成 25 年度研修会開催一覧

研修会名と日時	演題	演者	会場	参加人数
第 549 回研修会 H25 年 5 月 11 日	一般撮影における FPD の最新情報	コニカミノルタヘルスケア(株) 中村 一起 富士フイルムメディカル(株) 大島 裕二	エーザイ京都支店	28 名 + 非会員 9 名
第 550 回研修 H25 年 6 月 22 日	学生発表：高精度 X 線装置を使用した 電離箱式サーバイメータの校正 教育講演：富士フイルムデジタルマンモ グラフィシステム AMULET について	京都医療科学大学学生 楠 聡介、大北 哲也、朝野 聡明 富士フイルムメディカル (株) 大島 裕二氏	ホテルセントノ ーム京都	58 名 + 新人 9 名
第 551 回研修会 H25 年 7 月 26 日	1. 南丹市自然放射線量の分布図の作成 2. 子宮頸癌への小線源治療時における膀胱 充満度と膀胱壁の線量の関係について 3. 放射線による DNA 損傷に関する研究 4. X 線エネルギーによるデジタル画像 (量子化)の限界を探る 5. 3D マンモグラフィーにおける 最適化および立体空間の解明 教育講演：撮影技術の標準化を目指す (当院での取り組み)	京都医療科学大学 4 回生 船曳 政史・棚田 康友・神守 悠介・ 赤塚 大輔・香西 啓久 京都医療科学大学 4 回生 田中 景子 京都医療科学大学 4 回生 井上 真実・金子 実佳・宍道 知佳 京都医療科学大学 小田 敏弘 京都医療科学大学 4 回生 押川 千恵・田中 和子・南 さくら・ 横井 萌子 京都医療科学大学 小田 敏弘 京都医療センター 大西 孝志	京都アスニー	23 名 + 学生 18 名

第 552 回研修会 夏季研修会 H25 年 9 月 8 日	静脈注射（針刺しを除く）講習会	福知山市民病院看護師 京都府立医大付属病院看護師	福知山市民病院	65 名
--------------------------------------	-----------------	-----------------------------	---------	------

両丹地区研修会

研修会名と日時	演題	演者	会場	参加人数
両丹地区 春季研修会 H25 年 6 月 7 日	1. 320 列 CT CoronaryAngiography	福知山市民病院 渡辺 重光	福知山市民病院	21 名 + 非会員 2 名
	2. 当院における頭部 CT の撮像方法	京都府立医科大学附属 北部医療センター 豊嶋 章彦		
	3. 造影剤ならびに検査同意書のお話	第一三共株式会社京都営業所 造影剤担当 末光 大介		
両丹地区 秋季研修会 H25 年 11 月 9 日	1. 血液循環及び血行動態と CT 値	舞鶴共済病院 北井 孝明	福知山市民病院	18 名 + 非会員 5 名
	2. MRI の SNR におけるトレードオフと 3D	大阪医科大学附属病院 山村 憲一郎		
	3. MRI のアーチファクトについて理解と対策	大阪赤十字病院 高津 安男		
両丹地区 冬季研修会 H26 年 2 月 9 日	1. 当院の MRI 検査における症例画像について	京都府立医科大学附属 北部医療センター 坪井 伸悟	綾部市 うらしま荘	14 名 + 非会員 2 名
	2. 当院でのトモシンセシスの運用の仕方	福知山市民病院 中間 翔太		
	3. 内視鏡検査時の被曝低減について	舞鶴赤十字病院 藤原 朗		

静脈注射（針刺しを除く）講習会

日時	講習会・研修会	講師	会場	参加人数
H25 年 9 月 8 日	静脈注射（針刺しを除く）講習会	日本診療放射線放射線技師会 福知山市民病院看護師 京都府立医科大学附属病院看護師	福知山市民病院	65 名
H25 年 11 月 17 日	静脈注射（針刺しを除く）講習会	日本診療放射線放射線技師会 京都第二赤十字病院看護師 京都府立医科大学附属病院看護師	京都第二赤十字病院	37 名

近畿地域放射線技師会学術大会

平成 25 年度 近畿地域放射線 技師会学術大会 H26 年 2 月 16 日	<ol style="list-style-type: none"> 特別講演：iPS 細胞から見える未来に向けて 特別講演：未来ある子どもたちのために ～野球ひじ検診の重要性を中心に～ 教育講演：今後の診療放射線技師の役割 ～技師法改正を含めて～ シンポジウム 故障時対策—リスクマネジメントも含め— 一般演題：23 題 	京都大学 iPS 細胞研究所 臨床応用研究部門教授 高橋 淳 公立南丹病院 整形外科 琴浦 義浩 日本診療放射線技師会会長 中澤 靖夫	京都府立医科大学 図書館ホール 看護学舎	303 名 + 一般 31 名
--	--	---	----------------------------	--------------------

■平成 25 年 5 月 11 日に第 549 回研修会を開催しました。今回はフラットパネル（FPD）の最新情報としてコニカミノルタヘルスケアと富士フイルムメディカルの製品紹介を行っていただきました。

1. ワイヤレスタイプカセット型 DR「AeroDR」のご紹介

コニカミノルタヘルスケア株式会社 営業本部 MS 営業部 中村 一起

コニカは「AeroDR」として FPD を販売していますが、この AeroDR の特徴として、高画質・低被曝の実現、快適なワークフロー、軽量化と堅牢性の両立という点があります。蛍光体である CsI と TFT センサーの間にあった保護膜をなくし、X 線の検出率をアップしています。その代り CsI と TFT センサーをガラス基板ではさみ、強度を上げています。このため DQA は 1mR で 51%（従来型 CR では 22%）を実現しています。AeroDR はワイヤレスで動作しますので、バッテリーを内蔵しています。携帯電話等で使われているリチウムイオンバッテリーは電源容量が大きいのですが、発熱による熱暴走、継ぎ足し充電による寿命低下があり、AeroDR にはリチウムイオンキャパシタというバッテリーを採用しています。これは熱暴走の危険性や継ぎ足し充電による寿命低下がないので、AeroDR では内蔵型にし、交換はしなくてもよく、取り外しはできません。その代り電源容量が少ないので、省電力設計

を高め、待機状態で 16 時間の持続を達成しています。電源内臓型なので、カーボン素材で筒形形状のモノコック筐体を採用し、堅牢性を上げました。コーナーにはマグネシウム合金のバンパーでふたをしており、このふたが落下時の衝撃を吸収してくれて、本体へのダメージを和らげてくれ、かつ、ふただけの交換ができます。耐荷重として 1 点荷重で 150kg、全面荷重で 300kg をクリアしました。AeroDR は半切サイズで 2.9kg と軽量で、さらに新発売のフルサイズのパネルも 3.6kg を実現しています。更に 4 切りサイズも新発売しております。

1 枚の AeroDR で複数の撮影室をまたいでのご使用(ローミング)もできるように設計されており、業務効率化にも寄与します。

回診車に搭載できるように開発されたのが AeroDR 回診 UF ユニットです。これは X 線管球と連動しなくても、FPD が X 線を自動検出し、画像化します。これにより現在使用している回診車にも搭載可能ですし、手術室でも導入がスムーズに行えます。この回診 UF と連携して画像を表示・保存する CS-7 Portable (タッチパネル型パソコン) は、無線通信ができ、病棟で RIS/PACS と連携し、撮影した画像を即座に画像サーバーへ転送することも可能です。手術室での残存物確認のとして新たに導入した強調処理を行うと、通常撮影より異物確認が容易に行えます。この回診ユニットがあれば、検診車に搭載しつつ、かつ、老健施設では院内に持ち込んで撮影するという運用も可能です。

また、訪問診察時や災害現場、さらには馬舎等でも活用が可能です。

2. FUJIFILM DR システム CALNEO について

富士フイルムメディカル株式会社 営業支援グループ MS 部 島内 真路

富士フイルムメディカルの FPD 製品ラインナップとして、直接変換方式採用の BENEEO シリーズ、間接変換方式の CALNEO シリーズがあります。本日は CALNEO シリーズをご紹介します。立位専用 FPD の CALNEO-U、臥位専用 FPD の CALNEO-MT、ワイヤレスカセット型の CALNEO-C がございます。すべてのシリーズは CR 製品と含めて一つのコンソールで制御が可能です。ワイヤレスカセット型の CALNEO-C は従来カセットと同サイズですので、既存の撮影台を活用できます。耐荷重として 1 点荷重で 100kg、全面荷重で 150kg の耐久性があります。バッテリーは交換可能で、3.5 時間の待機が可能です。フルサイズ (17×17inch) と A4 サイズの製品もございます。すべての製品で、バッテリーやバッテリーチャージャが共用可能です。

回診製品として CALNEO-flex があります。コニカさんと同様で、ワイヤレス PDF カセット、コンソール、表示パソコンの 3 点セットで、画像表示は曝射後 2 秒と高速です。連続撮影は 10 秒ほどで可能です。X 線自動検出タイプですので、既存の回診車や撮影装置に導入可能です。一般撮影室を含めて一つの制御端末に 5 枚の PFD が登録可能ですので、高価なパネルの共用ができ、運用コストの削減ができます。

FPD を操作するコンソールが Console Advance です。FPD と CR を同時制御が可能です、かつ、RIS としても活用できます。過去画像との整合性も確認できます。高精細モニターも導入すれば、検像も可能です。

富士の FPD の間接変換方式は ISS 方式を採用しており、これは蛍光体の前面に TFT 膜を配置しています。X 線により発光した光を後面で受ける (CSS 方式) より、光が拡散しにくい前面で受光し、尖鋭度・感受性を上げています。これによりボケにくい画像になります。受光素子である TFT 層を X 線が通過して蛍光体層にたどり着くのですが、TFT 層による X 線の減弱は数%しかなく、被ばく量への影響はほとんどありません。

■平成 25 年 6 月 22 日に京都テルサで、全地区委員会に引き続き第 550 回研修会を開催しました。

「高精度 X 線装置による電離箱式サーベイメータの校正」

京都医療科学大学 4 回生 朝野 聡明、大北 哲也、楠 聡介

京都府内の技師会会員が所属している施設に電離箱式サーベイメータの校正時期等をアンケート調査した。その結果、3 年以内に校正を行っている施設は 47%と約半数しかなかった。

国が産業技術研究所 (産総研) で保有する標準線量計で校正された特定二次標準器により校正された線量計を基準線量計とする。このように元をたどれば国家標準とつながっていることをトレーサビリティという。

本大学には産総研と同性能の X 線発生装置 TAITAN225S (GE 社製) を保有しており、これを使用して臨床の現場で使用されている電離箱式サーベイメータの校正を行い、その特徴も調べた。

大学の X 線発生装置と基準線量計は管電流と管電圧を変化させた 2 種類の条件で複数回計測しても変動係数は最大 0.14% であり、JIS 規格の 5% 以下の条件を満たしていた。また、計測距離を変化させてもエネルギーに差は見られなかった。

以上の結果を基に京都府内の放射線技師会会員所属施設より集めた 63 台の電離箱式サーベイメータの校正を行った。さらに、サーベイメータの製造会社ごとの特徴や違いを調べた。

それぞれの線量計の校正係数の分布より、Aloka 社の線量計は校正係数 1.0 近辺に多くの分布を持っているが、他の会社毎ではばらつきがみられた。さらに基準線量に近似した値を示すものが少ないことがわかった。同じ製造会社、同じ形式のサーベイメータを用いても製造番号ごとで異なる校正係数を示すので、サーベイメータごとの校正が定期的に必要であると考えられる。

「富士フィルムデジタルマンモグラフィシステム AMULET について」

富士フィルムメディカル (株) 大島 裕二氏

平成 22 年の時点でマンモ撮影は CR が 68%、FPD が 15%、アナログが 17% と CR の普及が突出している。デジタル装置では石灰化の見え方が装置の性能により異なり、画像処理によっても同じである。富士フィルムは CR 時代よりさまざまな画像処理を搭載し、最新の W 階調は乳腺と脂肪領域のバランスを最適化した画像処理である。DR 用として新たに「ダイナミックビジュアル処理」、「乳腺コントラスト調整処理」、「EDR ADVANCE」を加え、モニター診断に最適なソフトコピー画像処理を行っています。「モニター診断向けに収録データをフルレンジで出力している」、「モニター表示に最適な新階調カーブを開発」、「乳腺濃度が大胸筋に影響されることなく、適切な濃度を表現する」、「様々な乳房構成の乳腺コントラストを最適化し、高濃度乳腺画像を高いコントラストで観察できる」といったモニター診断に最適な画像処理技術を富士フィルムは開発しています。

AMULET は世界最小の 50 μ m サンプリングを可能にした DR マンモグラフィ装置です。直接変換方式のアモルファスセレン (a-Se) 層の下に a-Se を使用した新たなスイッチング方式を開発しました。これにより同じ 50 μ m 解像度でも CR よりも FPD では明らかに石灰化が見やすくなっています。撮像時の受診者環境も考慮されており、「受診者に力が入りすぎない CC 撮影時のグリップハンドル位置」、「アームレスト機能が MLO ポジションを適切にサポート」、「撮影部角を先細り形状にして脇部の痛みを軽減」、「胸壁・腋窩パットにより痛み・冷たさ軽減」という女性に優しいエルゴノミクスデザインを採用し、装置の模様も 5 種類から選べるようになっている。

日常管理の QC ツールもシステムの一部として販売されており、1shot で IEC、EUREF 規格に準じた定量的な画質性能計算・結果の表示と管理が可能です。

マンモグラフィ CAD にも対応しており、腫瘍・石灰化候補の検出が可能です。また、3D マンモグラフィやトモシンセシスにも対応しています。

■平成 25 年 7 月 26 日に第 551 回研修会を開催しました。今回は京都医療科学大学の学生による発表と、現役放射線技師による現場の業務改善の取り組みを紹介していただきました。

1. 「南丹市自然放射線量の分布図の作成」

飯塚崇文・岩崎大輔・長野祐馬・山方亨介

福島第一原子力発電所事故以降、全国の原子力発電所の運転を停止させたが、福井県にある大飯原発だけ再稼働し、高浜原発についても議論されている。福井県に存在する原子力発電所の事故を想定した場合、事故後の状況と比較できる平常時の状態での放射線量及び放射エネルギーを把握しておくことが重要であると考えた。そこで本学が所在している南丹市の協力の下、市内 18 ヶ所に調査地点を設定し平常時の環境放射線量及び放射エネルギーの分布図の作成を行い、それらの地点で空間線量率の測定、地面からのガンマ線線量率の測定と土壌中の放射性物質の分析を行った。

空間線量率の測定は、可搬型モニタリングポスト (ALOKA) を用いた。結果、南丹市の空間線量率は 55~88 nSv/h と調査地点によって大きな差は見られなかった。地面からのガンマ線線量率をサーベイメータ (富士電気システムズ株式会社) で測定し平均を求めたところ、本学でのガンマ線線量率の日周変動とともに、同じ地点でもかなり変動することが分かった。土壌サンプルの放射エネルギー測定及び分析は、Ge 半導体型検出器 GMX 型 (セイコー・イージーアンドジー株式会社) で測定した。そ

それぞれの地点で検出されたものは主に自然放射性核種である 40K やウラン系列、トリウム系列、アクチニウム系列の核種であった。

2. 「子宮頸癌への小線源治療時における膀胱充満度と膀胱壁の線量の関係について」

船曳政史・棚田康友・神守悠介・赤塚大輔・香西啓久

近年、日本における若年層の女性の子宮頸癌は増加傾向にあり、20代から30代に多く発症している。子宮頸癌の治療法には、主に手術療法、放射線治療、化学療法があり、がんの進み具合やがんの部位、年齢、合併症の有無などによって治療法が決定される。その中の腔内照射は、子宮内に治療用器具を挿入し、子宮の中から放射線治療を行う方法である。病巣近くにたくさんの放射線をあてることのできるため、直腸や膀胱などへの影響を少なくすることができる。子宮頸癌腔内照射技術について、腔内照射前に膀胱内に生理食塩水を100cc注入すると膀胱が膨らみ腹側の膀胱表面や消化管の線量を減らすことができるという研究結果があることから、子宮頸癌のリスク臓器である膀胱を研究テーマとして、計算アルゴリズム（モンテカルロシミュレーション法）を利用したEGS5を用いて腔内照射における膀胱の線量分布をシミュレーションし、尿量による膀胱壁の位置や厚さの違いから膀胱壁の吸収線量の変化を検討した。

蓄尿が多くなると膀胱表面が線源から近くなることや表面積が増えることにより、蓄尿するにしたがって膀胱壁の吸収線量が増加してしまう。尿意が200mlで生じることや小線源治療全体では体位保持に60分程度時間がかかることから、あまり尿量を増やせないと考えられる。

3. 「放射線によるDNA損傷に関する研究」

田中景子

放射線被ばくは、医学目的の利用であっても極力避けなければならない。人体に対する放射線の負の影響を軽減するには、被ばくの低減化の他、放射線防護剤や放射線増感剤を利用する方法がある。しかし、利用可能なこれらの薬剤は未だごく少数で、その利用範囲は限られたものであることから、有効かつ安全な薬剤の開発が求められている。

そこで、新たな放射線防護剤や放射線増感剤の研究開発を目的として、DNAに対する放射線の影響に関する基礎的検討を行った。実験には、DNAとしてプラスミドDNAを用い、種々の条件下でDNAをX線照射した。照射後のDNAはアガロースゲル電気泳動し、エチジウムブロマイドで染色後、紫外線照射下で撮像した。X線によるDNA損傷の程度は、無傷のスーパーコイル状DNAのバンド強度を数値化し、その減少程度を基にして評価した。この実験系を用いることにより、DNA損傷に影響する因子や抗酸化剤・ラジカルスカベンジャーの効果に関するいくつかの知見を得た。

4. 「X線エネルギーによるデジタル画像（量子化）の限界を探る」

井上真実・金子実佳・宍道知佳・小田紘弘

従来から胸部撮影に使用されているアナログ画像（増感紙／フィルム系）は、撮影管電圧120kV～140kVを用いて画像コントラストを低下させる高電圧撮影が行われている。特に肺野や縦隔部および骨と脂肪組織とのコントラスト低下は、診断域を拡大し、肺野や縦隔部および骨に重なった血管や病変の診断に有利となる。しかし高電圧撮影は、散乱X線が多く含まれ散乱X線除去用グリッドを用いても画質は低下する。この両者の特徴を持つ線質効果は、「トレードオフ」の関係として知られている。

CRシステムは線量、線質が変化しても正規化処理（読み取り感度(S値)および読み取りラチチュード(L値)を変化させること)で常に一定の画像コントラストを保つことができる。

本研究では、胸部人体ファントムを用いてX線エネルギーを変化させて胸部CR撮影を行い、高電圧撮影をしなくても画像コントラストを抑え、散乱X線が少ないX線エネルギーを考察した。具体的には、管電圧70～140kV、付加フィルタ0.1mm、0.2mm、0.4mm厚を用いた線質の変化による画像コントラストは、0.1以内で写真濃度の差が小さい。撮影時間を考慮して、高電圧撮影140kVよりも低い管電圧80～100kV、0.1mm～0.2mm厚さ銅付加フィルタの使用においても、画像コントラストはコントロールできることを証明した。高電圧撮影の線質効果（診断域の確保と画質低下）は、「トレードオフ」の関係があるが、本研究の成果（診断域の確保と画質向上）から臨床応用が期待される。

5.「3D マンモグラフィにおける最適化および立体空間の解明」

押川千恵・田中和子・南さくら・横井萌子・小田紘弘

近年、ステレオ撮影による 3D マンモグラフィが臨床応用されている。ステレオ画像は、乳腺と重なった淡い病変の視認性が向上すること、腫瘍の内部構造や石灰化の分布の情報が増えることにより、腫瘍や石灰化の良悪性鑑別の診断が容易となることなどが報告されている。

本研究では、両眼視差の特性を利用した立体視の 3D ステレオ撮影を行い、2D 画像では得られなかった奥行き情報を正確に把握し、適正なステレオ角度や 3D マンモグラフィの有用性および被曝線量の最適化について検討した。

その結果、専用の観察器を使用しない裸眼による立体視のステレオ角度は、ゼロ度の基準角度に対して 6 度に傾けた撮影が適正な 3D マンモグラフィを得ることがわかった。

ステレオ撮影は 2 枚の画像を用いるため、被ばく線量は 2 倍 (200%) に増加することが懸念される。本研究では通常線量の画像と低線量画像のステレオを作成しても、人の脳の中では通常線量画像が優先される視覚システムがあることに着目して、X 線の被ばく低減を検討した。被ばく線量の最適化は、相対的撮影線量 80% と 50% によるステレオ撮影 (130% 撮影) であった。人間の視覚特性を利用したこの線量は 2 画像 200% 撮影に比べて 70% の被ばく低減が可能である。

最後に裸眼による立体視の 3D マンモグラフィの有用性は、日本人に多いデンスブレスト (乳腺密度が高い乳房) でも、デンス内部の診断が容易となることが期待される。

教育講演「標準化への取り組み」

独立行政法人国立病院機構京都医療センター 医療技術部放射線科 大西 孝志

医療現場で標準化は安全確保の重要な手段のひとつとして考えられている。現在は、一般撮影において撮影方法は確立してはいるが、種々の参考書を見てみると、それぞれ微妙に記述の違いがある。そこで当院では一般撮影法の標準化を試み、今回はそのなかから膝関節と股関節の撮影法をご紹介します。

標準化とは、判断の拠り所や行動の目安になるものを設け、それに従って統一することとあるので、標準化の第一段階としてマニュアルの作成を行った。昔のアナログ時代でのマニュアルは、撮影条件、現像方法、そして撮影方法となっていた。デジタル時代である現在では簡単に過去画像と比較できたり、リハビリ関係等の他職種の方も画像を見たりするので、再現性の重要度が求められている。

膝関節正面の位置付けと X 線入射位置について、複数の参考書を比較してみてもそれぞれ記載が異なっている。脛骨前縁の角度が参考書により 10°~13° と異なっている。被検者が座位か臥位かによっても膝の角度は変わり、位置付けする術者によっても測定する膝の角度がまちまちである。結果、被検者が座位で膝を進展している状態を膝正面の位置付けとしました。関節間隙を抽出するには入射 X 線束を尾頭方向に 7° 傾けるべきですが、関節間隙を観察するのは立位撮影が適切であるので、臥位での撮影では、関節間隙抽出よりも再現性の担保のために、垂直の入射としました。正面性の指標は膝蓋骨が内外顆の中心に位置しているのが参考書の解説ですが、膝蓋骨は可動性があり、位置が一定していません。なので、顆間窩腔が左右対称の山型に抽出されていることが正面性の指標としました。そのために撮影時には、大腿骨の外側上顆と内側上顆が同じ高さになるように体位付けます。

膝関節の側面に関しては、大腿骨の内外顆の後縁の重なりが 5mm 以内にするようにしています。その他の条件として、膝蓋大腿関節が広く、膝蓋骨は接線状に、大腿脛骨関節腔が顆間隆起部を除いて広く抽出されている、こととしています。

膝関節軸位撮影の合格基準として、膝蓋大腿関節腔間隙が均等に広く投影されており、膝蓋骨が軸位像であること、としました。

股関節の撮影法に関しては 10 種類ほどありますが、一般的には正面とラウエンシュタイン I 法が多く用いられているのではないのでしょうか。

股関節の撮影で実際に触れることのできる部位は、仙骨、坐骨、恥骨、恥骨結合、尾骨、上前腸骨棘、大転子があります。左右の上前腸骨棘と大転子の midpoint を結ぶ線を中心部が股関節の高さと一致しますので、ここを X 線束の入射点とします。下肢の体位としては、大転子を触れた状態で下肢を外旋から内旋させていき、大転子が一番大きくなった状態で撮影する、こととしています。ラウエンシュタイン I 法としては、骨盤を 45° 横に傾けた状態で、大腿下に補助具を入れて外転しすぎないようにしています。

位置付け以外の取決めとしては、撮影前に被験者自ら名前を名乗っていただくようにしています。複数部位の撮影に関しては、胸部、腹部、脊椎、というように画像サーバーに送信する順番を決め、さらに同一部位に関しても、正面、斜位、側面と、送信の順番が決まっています。頸椎に関しては撮影順が側面より行い、その画像から正面の管球振り角(ルシユカ関節に合わせる)を決定しています。再現性の確保のために、過去画像がある場合には、必ず確認するようにし、撮影マニュアルに沿わなかった撮影に関しては、画像にコメントとして記載しているので、それを確認してから撮影を行います。

京都医療センターでは「伏水塾」として今回ご紹介したような取り組みについて、時には他部署も交えての勉強会を開催しています。伏水塾は他施設の方でも参加可能ですので、私までご連絡いただければ、開催をお知らせいたしますので、皆様もどうぞご参加ください。

■3月1日に宮津市のうらしま荘にて両丹地区冬季研修会及び年度末事業報告会を行いました。

1. 当院のMRI検査における症例画像について

京都府立医科大学附属北部医療センター 坪井 伸悟

はじめに多系統委縮症は画像所見において小脳および脳幹の萎縮が重度で T2、T2flair 画像において脳橋内に十字状の cross sign が見られることや、疾患分類について紹介しました。次に、HDLS (軸索腫大と伴う遺伝性びまん性白質脳症) は報告例の少ない疾患で、両親のどちらかから変異した遺伝子を受け継げば現れる優性遺伝で、遺伝情報に関わる塩基配列が一カ所置き換わっただけで発症するなど、画像を見ていただきながら紹介しました。最後に急性期脳梗塞 (t-PA 適応) ですが、T2 star (SWI) 画像において M1 SVS(susceptibility vessel sign)が見られると t-PA 静注療法をしても早期再開通しにくいことや転帰不良の予測因子にあげられることなど、当院の t-PA 適応チェックリストも含め紹介しました。以上、3症例になります。まだMRI経験も浅く未熟ではありますが、画像に隠れている sign を見逃さないようにし、診断の手助けとなるよう頑張っていきたいと思えます。

2. 当院でのトモシンセシスの運用の仕方

福知山市民病院 中間 翔太

トモシンセシスには分解能が良く金属アーチファクトが少ないなどの特徴があります。これらの特徴を活かし、トモシンセシスはデジタル断層撮影法として特に整形領域で活用されています。しかし、当院での検査数はまだ多くはありません。今回の発表では原理や実際の症例画像を示し、「当院でのトモシンセシスの運用の仕方」について考察をしました。トモシンセシスはX線TV装置で行うため、他科の透視検査と重なってしまうとどうしても検査が出来ないこと、医師に対する周知度が低いことなどが原因だと考えます。

トモシンセシスは大きく有用性があることが様々な文献でも報告されており、今後の運用の仕方次第で検査数は変わるのではないかと考えられます。

3. 内視鏡検査時の被曝低減について

舞鶴赤十字病院 藤原 朗

今回のテーマは、放射線障害防護用器具が実際にどの程度被曝低減に貢献しているのかを検証し、防具の有用性を知り、医師、看護師に安心して検査をしてもらうことを目的として行いました。

今回の実験方法は、10Lの生理食塩水ファントムを3個並べ、エックス線透視条件はAUTOで、実際に当院で医師、看護師が検査時にいる場所を考慮して、照射点から天板上の等間隔での周囲、ここからの従事者配置点を測定点とし照射しました。測定条件は、防具無し、プロテクターエプロンのみ、防具あり、防具+プロテクターエプロンとの4項目を測定しました。

初めに防護無しで測定を行い、その測定点での空間線量率を100%とし、防護有りの場合、同一測定点でどれだけ低減したかを測定します。結果は、エプロンを着用すれば約90%、防具を装着すれば約80%、防護とエプロンを使用すれば約96%低減しました。

今回の結果より、当院スタッフとも防護の有用性を共有することができました。

編集事業

編集委員長 中島 智也

平成 25 年度の編集事業は、例年通り毎月 1 日に「京放技ニュース」を発刊、年度末には京都府放射線技師会雑誌を製作しました。また今年度は近畿地域放射線技師会学術大会が京都で開催されたことにより、抄録集も発刊しました。

京放技ニュースへの新たな取り組みとして、未だ掲載には至っていませんが、各施設の現場への取材も試みています。会員から求められる記事の掲載を心掛けてまいります。

京放技ニュースに対する意見・ご要望、原稿の投稿などございましたら事務所まで FAX か電話、e メールでお寄せ下さい。

■編集委員会構成

中島 智也 (田辺中央病院)
平川 益三 (京都第一赤十字病院)
以上 2 名と河本副会長で行いました。

■発刊書籍

京放技ニュース

635 号(平成 25 年 4 月号)	6 ページ
636 号(平成 25 年 5 月号)	8 ページ
637 号(平成 25 年 6 月号)	8 ページ
638 号(平成 25 年 7 月号)	6 ページ
639 号(平成 25 年 8 月号)	6 ページ
640 号(平成 25 年 9 月号)	4 ページ
641 号(平成 25 年 10 月号)	6 ページ
642 号(平成 25 年 11 月号)	6 ページ
643 号(平成 25 年 12 月号)	8 ページ
644 号(平成 26 年 1 月号)	6 ページ
645 号(平成 26 年 2 月号)	6 ページ
646 号(平成 26 年 3 月号)	6 ページ

平成 25 年度近畿地域放射線技師会学術大会抄録集
平成 25 年度京都府放射線技師会雑誌 (年報)

厚生事業

厚生委員長 中川 稔章

平成 25 年度厚生事業活動の概況を報告致します。上原委員、金津委員、西本委員の 4 名にて、京都府放射線技師会が推進している地区活動及び会員相互の親睦を目的に一年間活動してきました。今年度も会員のご協力のおかげで事業を無事行うことができました。

■厚生委員会構成

上原 秀夫 京大病院
西本 岳 京都第二赤十字病院
金津 武弘 自宅(囲碁担当)
中川 稔章 京都府立医科大学附属病院

■フレッシュ診療放射線技師の集い

6 月 22 日(土) ホテルセントノーム京都

全地区委員会、第 550 回研修会に続いて開催されました。フレッシュ技師 28 名(2 年目非会員 1 名含む)、一般会員 40 名、学生 3 名、計 71 名の参加者で開催されました。

轟会長の挨拶後、小倉名誉会員の乾杯の音頭により楽しく始まりました。

毎年恒例となりましたフレッシュ技師の紹介をし、楽しいひとときを過ごせました。

フレッシュ技師の方々には、他の施設とまだ交

流が少なく、熱心にベテラン技師の話に耳を傾け、フレッシュ技師同士も情報交換を行なえたのではと思います。今回、この会に参加して技師同士の交流がいかに大切かを少しでもわかっていただけたならと期待し、午後 9 時、河本副会長の閉会の挨拶により楽しく会を終了しました。

来年も会員の皆様からのフレッシュ技師の紹介をよろしく願います。

■第 60 回近畿地域放射線技師会野球大会

10 月 6 日(日) 浜甲子園運動公園野球場

秋晴れの良い天気恵まれ、第 60 回近畿放射線技師会野球大会が西宮市「浜甲子園運動公園」にて開催されました。選手 10 名、応援 2 名の参加でした。

大会までの準備期間が短く選手集めに苦労しましたが、なんとか出場することができました。ギリギリの人数でがんばりましたが、残念ながら今年も 5 位という結果に終わりました。

1 回戦の奈良県との対戦では、チャンスを作るもあと一本が出ず、悪い流れのまま回が進み、終わってみれば 4 対 6 で惜敗でした。

続けて行なわれた 5、6 位決定戦は和歌山県と

の対戦となり、3対3の同点で迎えた最終回に3ランホームランが飛び出し、6対4で勝利することができました。

今年も参加人数がギリギリの中、大きなけがも無く無事に終わることができよかったと思いつつ、来年こそ優勝をとの期待を胸に今年の大会を終えました。

選手の皆さん、暑い中どうもお疲れ様でした。

結果

【1回戦】奈良県 6-4 京都府

【5、6位決定戦】京都府 6-4 和歌山県

優勝：兵庫県、準優勝：大阪府、3位：滋賀県、4位：奈良県、5位：京都府、6位：和歌山県

■第24回近畿地域放射線技師会囲碁大会 京都府予選会

12月16日（日）京都府放射線技師会会議室
予選参加者及び成績

1位 金津 武弘 (236) 5勝0敗(勝ち点+9)
2位 小林 徹 (236) 3勝2敗(勝ち点+3)
3位 江南 伸治 (226) 2勝3敗(勝ち点-2)
4位 古川 襄 (214) 2勝3敗(勝ち点-2)
5位 荒木 信義 (230) 2勝3敗(勝ち点-3)
6位 森江 彰 (202) 1勝4敗(勝ち点-5)
3位、4位、5位は同じ勝ち数のため、勝ち点、持ち点により決定しました。

()内の数字は前年度近畿大会結果の持ち点以上 上位5名出場決定

近畿大会

平成25年1月19日（日）大阪府医師協同組合 第25回を迎えた近畿地域放射線技師会囲碁大会は大阪府医師協同組合 8階大ホールにおいて1月19日（日）定刻10時に開催されました。

雪のちらつく寒い日になりましたが、60名を超える選手、役員、関係者が集い、各チームが優勝めざして熱き戦いを繰り広げました。京都チームは去年の雪辱を果たすべく選手が一致団結し、他を寄せ付けない4勝0敗で見事優勝(通算9回)することができました。

皆様長い一日、本当にお疲れ様でした。なお、敢闘賞は小林 徹選手が受賞されました。以下に団体と個人の結果を掲載します。

(団体の部)

優勝	京都	4勝0敗 (15勝5敗)
準優勝	大阪	3勝1敗 (13勝7敗)
3位	兵庫	3勝1敗 (13勝7敗)
4位	和歌山	2勝2敗 (10勝10敗)
5位	奈良	0勝4敗 (5勝15敗)
6位	滋賀	0勝4敗 (4勝16敗)

(個人の部)

金津 武弘 (232)	1勝3敗
荒木 信義 (238)	4勝0敗
小林 徹 (244)	4勝0敗
江南 伸治 (234)	4勝0敗
古川 襄 (216)	2勝1敗
森江 彰 (200)	0勝1敗

()内数字は次回持ち点

組織調査事業

組織調査委員長 久保田 裕一

平成25年度の組織調査委員会の事業報告をおこないません。
事業計画案であります①各学校及び会員施設へ京都府下の就職者紹介の調査、②全地区委員会の企画・運営、③地区委員会への参加、④第3回学遊会(厚生委員会合同)の開催を行いました。

年度初めの4月下旬より各会員へ入職者の紹介案内を地区理事経由でネットにて配信。診療放射線技師養成学校8校へ新入職者の紹介依頼を送付しました。

6月22日ホテルセントノーム京都にて全地区委員会の開催。

各地区委員へ事前アンケートを実施し、その内容に沿って会議を行いました。また事前に会議内容を理解されていた分、当日は活発な討議

が行えた。

また厚生委員会と協力し、第3回京放技学遊会を企画実施しました。今年度は遊びで会員間の交流を行う目的で友愛の丘にてバーベキューを行いました。各事業の詳細を報告します。

■担当委員

前田 富美恵	(京都市立病院)
蒲 順之	(大島病院)
熊井 由昌	(大阪医科大学附属病院)
山本 紗知子	(関西医科大学枚方病院)
松元 誠	(松下電器健康管理センター)
久保田 裕一	(関西医科大学枚方病院)

以上6名にて組織調査事業を行いました。

■25年度活動年表

- 4月23日 組織調査委員会
入職者調査依頼を会員施設へ地区理事を通してネットにて配信
新卒者就職先調査依頼を8学校へ発送作業
京都医療科学大学、徳島大学、金沢大学、鈴鹿医療大学、神戸総合医療専門学校、近畿医療技術専門学校、藤田保健衛生大学
岡山大学（過去の紹介実績、また紹介拒否施設を除いた施設）
- 5月15日 全地区委員会用、事前アンケートを各地区委員へ配信
- 5月21日 組織調査委員会
新入会案内、フレッシュ診療放射線技師の集い案内発送（37名）
全地区委員会案内発送
- 6月13日 組織調査委員会
- 6月22日 全地区委員会開催
- 10月1日 組織調査、厚生合同委員会
- 12月26日 組織調査、厚生合同委員会
- 2月28日 組織調査、厚生合同委員会
- 3月16日 西南部地区委員会出席
- 3月19日 組織調査、厚生合同委員会
- 3月30日 第3回京放技学遊会開催

■診療放射線技師の新卒者紹介

8校及び会員施設宛てへ京都府下に就職された新卒者紹介の依頼を行いました。37名の紹介がありフレッシュ診療放射線技師の集いへの案内を発送しました。

■全地区委員会

今回の全地区委員会は活発な討論を目的に地区委員の皆さんに事前アンケートを実施し、アンケートの内容に従って会議を行いました。アンケートの内容および議事録は以下の通りです。

アンケート(以下の問いに記述でお答えください)

1. 京都府放射線技師会の事業である研修会に何を求めていますか？どのような研修会なら参加されますか？（開催場所、時間、内容また知識向上、資格、ポイントなど）
2. 貴方は技師会の活動に何を求めていますか？（地位向上・業務拡大・法律の改正や身近な業務相談・仲間作りなど）
- 3-1. 会員数減少が問題となっています。何故だと思いますか？

- 3-2. また、どうすれば技師会員が増えると思いますか？
4. 貴方にとって技師会のメリットとは何ですか？
5. 貴方はSNS(ソーシャルネットワークサービス)を利用していますか？
6. 全地区委員会で取り扱って欲しい議題はありますか？
7. 地区委員として何か地区の問題点はありますか？
8. その他 何かご意見や質問がありましたらご自由にお使いください
ご協力ありがとうございました。

議事録

平成25年6月22日(土)15時20分より ホテルセントノーム京都 平安の間にて開催

参加者：三役：轟、河本、北村

常務理事：皿谷、武部、原口、中島、久保田、中川、中田、山根

地区理事：古谷、平川、丸山、渡里、松元

地区委員：奥野(北地区)、山本 芝田(東地区)、平井 後藤 中川 遠山(西地区)古谷(南地区)、高田 梶本 岩木 松本(西南部地区)

監事：田城、名誉会員：小倉、

組織調査委員：熊井、前田、山本、蒲

1. 松元理事の司会進行により開始される
今年度テーマを「組織力を上げる」にして、話し合いをしたいと思います
・久保田理事より挨拶
事前アンケート協力頂きありがとうございました。アンケートを基に、有意義な会にしたいと思います
・轟会長挨拶
皆さんが普段疑問に思っていることに答えながら、今後の技師会の動きなど話していきたいと思いますので積極的なディスカッションになるようにご協力お願いします
・北村副会長より日本診療放射線技師会総会報告

6月1日に東京にて通常総会が行われ、中澤会長より3つの内容について報告があった

1. 抜針及び注腸講習会が各地で行われている件。法的整備が6月までには行われる予定だったが、政権交代等でずれ込んでいるが今年度中には進めたい。注腸講習の実習で不備があったことに対するお詫び。
2. 読影の補助に関しては法的に認められた。願わくはレポート作成までもってきたい。
3. 国民の健康保健法改定に向けて
日放技と厚生労働省の話し合い、他団体を

含めての話し合いをしている。今度の参議院選挙に放射線技師が出馬するらしい。グレーゾーンを透明に、明確に。

1号議案・2号議案・前年度予算・今年度事業計画案、満場一致で可決

詳しくは7月号ニュース・雑誌に掲載

質疑では60歳以上のシニア世代の会費についてあがり、少し免除する方向に。

事務手続きの不備に対して取り組んでいる。

会費未納者への催促を行っている。

- ・轟会長より日本診療放射線技師会総会報告(追加)

検診業務において医師の立会いが必要であるが、診療放射線技師法26条改正を訴えている。

医師の具体的指示の元とあるが、具体的を外すことで立会いが不要になる。本来、医師が左右を間違えて指示した場合、間違った部位を撮影しないといけないが、現状ではそんな事ない。

先の国会にて重粒子線治療施設において放射線治療医や医学物理士の整備が必要ではないかと質問があったが安倍総理は、医学物理士を国家資格にするつもりはなく、診療放射線技師が中心になってやるべき、と回答

- ・松元理事より質問 具体的指示の件で、「具体的」だけが外されて、指示は残るのか。

→その通りです。(轟)

- ・後藤委員より質問 抜針について詳しく知りたい。

→最終的にはCT・MR・アンギオでの抜針が可能になる、9月の臨時国会で厚生労働省が他の法案とまとめて出す。全国実態調査で6割の技師が抜針をしていることを踏まえて、法制化することになった。抜針可能技師を認定するのは技師会が主体となる(轟)

- ・北村副会長より近畿地域放射線技師会学術大会について。

平成25年度の近畿学術大会は、平成26年2月16日、京都府立医科大学で予定

テーマは、信頼そして未来へ、参加費は会員1,000円、非会員技師2,000円、府民は無料。

府民講座、教育セミナー、ランチョンセミナーなど予定。府民講座は、野球肘について。

(予定)

2. 事前アンケート集約(司会進行:松元理事)

- ・研修会になにを求めているか、認定技師ポイントについて。

→皆さんの研修の機会を増やしていくために、いろんな勉強会とタイアップしている。ポイント付与や参加費無料など。現在は賛助

会員が行っているもので「高速X線CT研究会」と「京滋CTセミナー」の2つ。一般撮影、MRI、核医学などもすこしずつ広げていきたい。研修会の後援としている。

技師会のポイントも付くように進めていきたい。(河本)

今後たくさんタイアップしていただいて技師のメリットとなるように。(久保田)

→研修内容は、技師会だから基本的な内容など最新技術など多様。場所・時間などもそれぞれ勤務先から行きやすい所と多様。(久保田)

数年前から夜間開催もしている。会場の問題だがメルパークは会場費が高く経費がかさむので、エーザイ事務所で行うことが増えている。内容に関してはアンケートを参考にします。(原口)

- ・技師会活動に求めるものについて、認定について

過去には、放射線管理士・放射線機器管理士などあったが、今はどのようになっているのか?

→広告できる技師をたくさん作りたいが、最初は放射線治療認定技師になるだろう。これは厚生労働省が、国民に判りやすいものと言ってきているから。中澤会長は今までの機器管理士なども無駄になるようなことはないし水面下で動いていると言っている。CTで専任・専従という言葉が出てきているがそれもその流れ。(轟)

他団体がやっている認定制度は広告の対象になるのか?(松元)

→職能団体が申し出したもののみであるので、放射線技師会がしたもののみになる。最初が一番肝心で放射線治療が通れば、CT・MRなど技師会でしているものを押していきたい(轟)

他の認定をとる時に、技師会の認定3級が必要なものがあるが更新の時にはどうしたらよいのか?(久保田)

→CT3級などは現在基礎講習と名前を変えている。そのあたりの扱いを本年6月までに会員に出す予定だったが遅れている。必ず出るので待つてほしい。(轟)

公告とは何か教えてほしい。病院のホームページを見ると認定技師が載っていたりするが。(松本)

→公告とは官報に載せられる、公に認められたという意味で、技師の公告ができた際には病院のホームページに他団体の認定技師を載せると、ペナルティを科せられる可能性がある。(北村)

技師格の方向性やメリットについて教えてほしい。(梶本)

→シニアを取れば大卒と同じだと言われていたが、今ではただの到達目標になっている。技師会の中の認定を取る上では、プラスアルファの加算はしてもらっている。(北村)

・業務相談について提案(久保田)

アンケートでも頂いているが、技師会の会員が業務するにあたっていろんな相談に携わってもらえないかとあった。組織調査委員会でも、モダリティごとのグループを作って意見交換をしてみてもとあがっていた。情報社会になり相談にもスムーズに答えることで会員の利益にもなる。具体的なことは何も決まっていなかったが、モダリティごとで、身近な質問も受け付けていきたい。

日赤では日赤技師会というのがあってそこでやりとりがある。また技師長会もあるので、そこでは運営についても話している。機器導入を検討しているときに役立つ。技師会でも各モダリティで長けている人に答えてもらって、内容によってはホームページに上げてみるのもいいと思う。(平川)

・会費が高い件で財務より(武部)

16年前は会員が650人いたので毎年繰越も100万円程できていたが、今は会員が200人減ったので収入も200万円減っている。ここ数年、経費節約に取り組んでいる。学術では研修会の会場費を抑えるために京都駅周辺のスペースを借りるのではなく、賛助会員の事務所を借りたりしている。編集では新聞代が月5万円、発送に2.5万円かかるが、自前で構成までして印刷代のみになるように努力している。

今の会員数で会費を下げるのは難しく、会員が増えれば以前のように余裕が生まれ会費を下げることも可能になってくる。

会費が高いと人が減る、減ると予算が減る、そうすると会費が下げられないという悪循環になっているが、日放技は下げる予定あるのか?(後藤)

→60才以上の会員の会費を下げる話はあるが、それ以外はない。現在京都の組織率が50%。他の地方は80~90%あるので8,000円で事足りる。他の団体は、会費は安くても研修会費は数万かかる。技師会は会費が高いが、研修会費は数千円でしている。高いか安いかは自分がどれだけ活用しているかだと思う。(轟)

・なぜ技師会に入会したか

大阪医科大学附属病院に入職した時に先輩が技師会の役をしていたので。(高田)

初め勤めた職場に技師が5人いたりするので入会するメリットを感じてなかったが、転職して技師が一人になり情報など何も入ってこなくなったので入会した。(芝田)

僕らの時代は入って当たり前だった。(平井)以前は職場の上司が技師会に入っていて、後輩も入るのが当たり前だったが、今は上司が入っていないことが多くなったのも会員減少の原因だろう。(久保田)

松下記念病院では当時、副技師長が大阪の会長をしていたので就職と同時に技師会の案内を渡していた。皆さんも辞めてないということは少なからずメリットを感じていると思うので、職場で未入会の人がいればメリットを話すなどして広報活動していただくとありがたいです。(松元)

・職能団体とは?(河本)

厚生労働省が認可していることで、技師法などで地位が守られている。また時代に合った技師法に変える事ができるのも職能団体である日本診療放射線技師会であり京都府放射線技師会である。ただし、我々だけでは力が足りない、技術学会など他団体と力を合わせ、力をつけた上で監督官庁と話さないといけない。

・全国学術大会について(轟)

今までやってこなかった京都での全国学術大会をレントゲン発見120年である2015年11月21日から23日まで。会場は国際会議場全室で。全国から会員が来るのでJTBに協力してもらって1,500室おさえた。企画はまだ決まってないので、何でも言ってほしい。京都の会員全員が協力してもらいたい。日常業務に支障のないように連休で開催します。

・地区の問題点で上がってきた会員への連絡方法の事で、新たな取り組みとして西地区で行っているメーリングリスト作成・運用について、西地区理事の丸山さんよりスライドを使用し説明

→問題点：今までのFAXでは業務中で気づかないことや次に送れないことがあった。事後報告になったり、全会員が情報を受け取ったかわからなかった。地区委員の負担も大きかった。

目的：地区委員の負担軽減、速やかな情報伝達、FAXの廃止

理事会にて承認を得、情報担当理事の協力を得て西地区会員のメールアドレスを取得。

試験運用として理事と委員のみで三ヶ月行い、会員に広げていった。

誰でも登録できるように説明書を作成し技師会新聞に同封。

登録期限内に 98%の会員が登録完了。
訃報連絡がすぐに来る事や画面に残るのがとても好評であるが、いらぬ情報が来ると不満を漏らす方も委員としては仕事が減り助かる。みんなに登録してもらうまでが大変だった。頻繁に同じ内容のメールがあったので選択して送る必要がある。(後藤)
学内にもメーリングリストがあるが、携帯電話を変更してアドレスが変わっても登録しなれない人がいて、みんなに送れてない事がある。(遠山)
リタイヤ組には代行で登録したり、電話連絡を取りながら設定してもらったり、伺ったこともあった。(丸山)

久保田理事が閉会の辞を述べ閉会する(17時00分)
文責：蒲

■第3回京放技学遊会

3月30日第3回学遊会を開催しました。今年度は遊びをメインに会員間の親睦や交流を深めたいと友愛の丘にてバーベキューを行いました。雨の中での開催となりましたが、23名の参加者がBBQを楽しみました。

今後は更に多くの会員が交流を持てるように、次年度以降も色々企画を行ってまいりますので、是非参加してください。宜しくお願いします

情報事業

情報委員長 中田 博之

情報事業は、主にインターネットを用いて府民の皆様へ医療放射線に関する記事、資料をご覧いただけるようホームページを企画、作成を行っています。

また理事会決定の重要事項、日本診療放射線技師会からの通達事項はニュース紙面の内容が会員の皆様のお手元に届く前にホームページに掲載を行っています。

平成25年度は、法人設立30周年及び公益社団法人取得記念式典に関して長期にわたり広報しました。また同時に京都府開催の近畿地域放射線技師会学術大会の広報を行って来ました。学術大会にあわせ新しい試みとし、事前登録フォーム、演題受付フォームを採用しホームページ上で手続きが完了できるようしました。また、理事用にメーリングリストを作成し、検討課題、資料を配布できるようにしました。そしてこれを機会に、京放技宛での申請やお問い合わせをフォーム化できないか検討を進めています。

<京都府放射線技師会ホームページアドレス>
<http://www.kyohogi.jp>

■情報委員会構成

中田博之	三菱京都病院
城下克明	京丹後市立病院
多富 仁文	三菱京都病院

■平成25年度の主な活動(ホームページ更新)内容

4月3日
森信一名誉会員を偲んで。
京放技ニュース原稿、PDFを掲載。

4月16日
平成24年度事業総括、監査報告書、会計報告を掲載。

5月1日
京放技ニュース原稿、PDFを掲載。

5月2日
会費納入規程、入退会等に関する規程、役員の報酬等ならびに費用に関する規程を掲載。

5月30日
京放技ニュース原稿、PDFを掲載。

7月3日
京放技ニュース原稿、PDFを掲載。

8月2日
京放技ニュース原稿、PDFを掲載。

8月4日、5日、6日、7日
学術大会申し込みフォーム、作成、検証作業。
京放技ニュース原稿、PDFを掲載。

8月12日
演題申し込みフォーム、事前登録フォームの試験運用を理事限定で開始。

8月15日
30周年記念式典用バーナー作成作業。

8月16日
近畿学術大会用バーナー作成作業。

8月31日
30周年記念式典ポスター作成作業。

9月1日
30周年記念式典書面作成作業。

管理士事業

管理士委員長 山根稔教

平成 25 年度の管理士会は、管理士という枠にとらわれず活動してきました。本年度当初は前年度から継続の京都医療科学大学と提携した線量計校正の研究から始まりました。西谷教授とその指導学生、当技師会の管理士委員等のメンバーで、線量計の校正值について各メーカーの特性や機種別による特性等についての実験を行いました。結果の方は京放技研修会、全国の学術集会、近畿学術集会、京放技ニュース等の方にも報告させていただきました。

6 月には京都病院学会にて放射線にたずさわる管理士として座長の参加もいたしました。7 月からは、地方のことになるかもしれませんが、府民という枠で南丹市、亀岡市の原子力防災訓練に参加表明し活動を行ってきました。8 月 31 日の亀岡市原子力防災訓練には 5 名のメンバーが参加し活動しました。ブースでは亀岡市立病院、亀岡シミズ病院等の方と連携を組んでリーダーシップを示しながら活動できたと思います。今回、亀岡市では、はじめての訓練ということもありましたが、無事終わりました。南丹市の原子力防災訓練の方は大雨による災害のため中止となりました。

9 月 7 日には京都医療科学大学にて線量計校正を行う実習をしました。参加者の方は 3 月から 4 月にかけて行った研究の時に校正したためやや少なかったです。しかしこの線量計の校正は定期的に行っていかなければならない事なので毎年 9 月の時期に京都医療科学大学と連携して開催していくことで進めていきたいと思っています。10 月には毎年恒例のくらしと健康展が開催されその中の放射線相談コーナーにおいてアドバイザーとして管理士会から 2 名参加しました。

1 月 25 日には京都府が初めて開催する原子力総合防災訓練が開催されました。この訓練開催にあたり京都府から京都府放射線技師会に参加要請があり両丹地区から 5 名、管理士会と理事会本部から 5 名の計 10 名が参加し活動を行ってきました。規模的には京都府、福知山市、綾部市、舞鶴市が主催の大規模なもので消防、警察、自衛隊などの機関の参加もあり 180 人の避難住民を想定したものでした。3 月、11 月、12 月に関連会議に出席して行政と関わりを持って今回の訓練に望みました。公益法人として府民、市民のために活動していることを示していける一つの活動になったと思います。この訓練は今後毎年地域を変えて開催される予定だそうです。来年は南丹地区の予定だそうですので皆様のご協力よろしくお願いします。

2 月 16 日の平成 25 年度近畿学術集会では、午

前中に機器管理士、線管理士の分科会を開催し各分科会の活動や更新に関する内容等の講演を行っていただきました。大変役に立つ情報だったと思います。また午後には今年で第 7 回になる近畿地区管理士ネットワークミーティング会議を行いました。当初京都から始めた会議ですが今回で 2 周りに入りました。近畿地区の機器管理、線管理の担当者が参加しての会議が開催できたことにより近畿地区での今後の協力体制の強化や分科会と地方技師会の管理士関連の部門での交流が図れたことは大変有意であったと思います。

最後に今後も管理士会としては、線量計の校正活動や原子力防災訓練でのサーベイ活動などを中心とし、多くの放射線関連の活動に参加していく予定です。

■平成 25 年度 管理士会活動記録

- 4 月 6 日 線量計校正実施及び測定値等のデータ集計（京都医療科学大学）
- 4 月 23 日 管理士委員会開催（亀岡シミズ病院）
- 5 月 14 日 線量計校正研究集約会議開催（亀岡シミズ病院）
- 6 月 22 日 研修会で線量計校正研究の発表（京都医療科学大学学生にて）
- 7 月 3 日 南丹市総合防災訓練打ち合わせ参加（南丹病院）
- 7 月 11 日 南丹市総合防災訓練会議参加（南丹市役所）
- 8 月 1 日 亀岡市総合防災訓練会議参加（亀岡市役所）
- 8 月 23 日 南丹市総合防災訓練スクリーニング会議参加（南丹市役所）
- 8 月 31 日 亀岡市総合防災訓練参加（スクリーニング）（亀岡市月読橋グランド）
- 9 月 7 日 線量計校正実習開催（京都医療科学大学）
- 9 月 20 日 日本診療放射線技師会学術大会にて京放技管理士会関連発表 2 題（島根県松江市）
- 9 月 30 日 南丹市総合防災訓練中止連絡文関係者へ発送
- 10 月 6 日 南丹市総合防災訓練中止
- 10 月 20 日 暮らしと健康展 放射線相談アドバイザー参加（京都府医師会館）
- 11 月 28 日 京都府原子力防災訓練開催会議参加（福知山市）
- 12 月 18 日 管理士委員会開催（亀岡シミズ病院）
- 12 月 19 日 京都府原子力防災訓練開催会議参加

	(福知山市)	1月25日	京都府原子力防災訓練 10名参加 (福知山市)
12月	両丹地区で京都府原子力防災訓練参加者を募集	2月16日	近畿地区学術集会にて機器管理、線管理近畿ネットワーク会議開催 (京都府立医科大学)
12月	近畿学術集会での機器管理、線管理分科会の講師依頼打ち合わせ	2月27日	京都府原子力防災訓練開催会議参加 (福知山市)
1月24日	京都府原子力防災訓練事前打ち合わせと準備に参加 (福知山市)		

地区活動

北地区

北地区理事 古谷 充

北地区理事に就任して、1期2年の任期が終わろうとしています。地区の各施設との連携、協力関係を深め、研修会や講習会等の生涯教育や法改正の情報発信を行い、地区活動の活性化を目標としていましたが、なかなか思うように活動できず申し訳なく感じています。しかしながら、CT装置の更新時や故障時に各施設で協力して検査を行うルール作りなど少しずつ改善している部分もありました。北地区の各会員の皆様にはご迷惑をおかけすることもあったかと思いますが、なんとか理事の方々、地区委員の皆様のご指導、ご協力のおかげで務めることが出来ましたことを厚くお礼申し上げます。今後とも技師会活動についてのご協力をよろしくお願いいたします。

【平成25年度北地区活動年表】

月 日	項 目	内 容
平成25年		
5月11日	研修会、通常総会、出席	参加
6月9日	京都病院学会	参加
6月22日	全地区委員会 フレッシュ診療放射線技師の集い	参加
7月25日	北地区委員会開催	4名参加
10月26日	法人設立30年、公益社団法人取得記念式典	参加
平成26年		
1月30日	北地区委員会開催	4名参加
2月16日	近畿地域放射線技師会学術大会	参加

中地区

中地区理事 楡 隆之

京放技の中地区理事になり、2期2年目が過ぎようとしています。今年度も、昨年度から引き続き、情報発信をこまめに行って、少しでも日本診療放射線技師会や京都府放射線技師会の活動を知ってもらえるようになってきました。残念ながら、中地区会員の皆様にはなかなか技師会行事に参加してもらえなかった様に思います。至らない点はあると思いますが、三役をはじめ常任理事、監事の皆様に助けて頂いて、無事任期を終えることが出来そうです。この1年間ありがとうございました。

【平成 25 年度中地区活動年表】

月 日	項 目	内 容
平成 25 年		
5 月 11 日	第 549 回研修会、通常総会出席	2 名参加、3 名参加
6 月 8 日	第 48 回京都病院学会準備	1 名出務
6 月 9 日	第 48 回京都病院学会	1 名出務
6 月 14 日	第 1 回中地区委員会	5 名参加
6 月 22 日	第 550 回研修会、全地区委員会	各 2 名参加
8 月 31 日	第 7 回 JSRT-JART 公開合同学術セミナー	1 名参加
9 月 7 日	静脈注射（針刺しを除く）講習会	1 名参加
10 月 3 日	第 2 回中地区委員会	5 名参加
10 月 20 日	法人設立 30 周年記念式典	2 名参加
平成 26 年		
2 月 16 日	近畿放射線技師学術大会	5 名参加

東地区

東地区理事 平川 益三

地区理事は2回目、2年目の任期を過ぎようとしています。地区委員、東地区会員の方々には大変お世話に成りました。技師会事業が重要であることをわかりつつも京放技会員数も増えず、日放技会費等の事務処理の不手際が気にかかります。今後、京都の重職技師、古参技師の方々の執行部に対する御援助を期待致します。

【平成 25 年度東地区活動年表】

月 日	項 目	内 容
平成 25 年		
5 月 11 日	通常総会及び研修会	参加
6 月 22 日	全地区委員会	5 名参加
	東地区委員会開催	5 名参加
	フレッシュ診療放射線技師の集い	3 名参加
平成 26 年		
2 月 16 日	近畿地域放射線技師会学術大会	フレッシュ 6 名参加 4 名参加 シンポジウム座長 2 名選出

西地区

西地区理事 丸山 久喜

西地区理事を務めさせていただいて、4年が過ぎようとしています。

この1年の地区活動につきましては特に大きな事はできませんでした。しかし、昨年運用を始めましたメールマガジンによる地区連絡方法につきましては、必要な情報を早く会員様にお知らせすることができたと思っております。

最後に、今年度の技師会活動にご理解とご協力をいただきました会員の皆様、地区委員の皆様に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

【平成 25 年度西地区活動年表】

年 月 日	項 目	内 容
平成 25 年 5 月 11 日	第 549 回研修会	7 名出席
	第 2 回通常総会	9 名出席
6 月 9 日	第 48 回京都病院学会	2 名出席
6 月 22 日	全地区委員会	4 名出席
	第 550 回研修会	4 名出席
	フレッシュ診療放射線技師の集い	2 名出席
7 月 26 日	第 551 回研修会	3 名出席
10 月 17 日	地区委員会	6 名出席
10 月 26 日	法人設立 30 周年記念式典	8 名出席
平成 26 年 2 月 16 日	近畿放射線技師会学術大会	当日実行委員として 7 名参加

南地区

南地区理事 渡里 弘

南地区理事を勤めさせていただいて 2 期目が終わります。地区委員の方々にも継続して手伝ってもらっていました。長い委員の方で 3 期以上委員を続けていただいています。申し訳ないのですが、今後よろしくお願ひします。

財務委員としても御指導を頂きながらお手伝いさせてもらっているのですが、平成 25 年度は技師会も近畿学術大会なども開催され充実した日々を送れています。届け上煩雑な内容もありますが、未熟ながら少しでも技師会の役に立つよう努力していきたいと思ひます

【平成 25 年度南地区活動年表】

月 日	項 目	内 容
平成 25 年 5 月 11 日	第 549 回研修会及び通常総会	3 名参加
6 月 9 日	第 48 回京都病院学会	2 名参加
6 月 22 日	全地区委員会 フレッシュ診療放射線技師の集い	2 名参加
7 月 26 日	第 551 回研修会	2 名参加
8 月 2 日	南地区委員会（宇治徳洲会病院会議室）	
10 月 20 日	くらしと健康展	2 名参加
12 月 日	南地区懇親会・地区委員会	8 名参加
平成 26 年 2 月 15 日	第 2 回会長副会長懇親会	3 名参加
2 月 16 日	近畿地域放射線技術学術大会	7 名参加
3 月 30 日	学遊会	3 名参加

西南部地区

西南部地区理事 松元 誠

地区理事として 4 期、8 年間勤めさせていただきました。毎年開催されるフレッシュ診療放射線技師の集いや、今期は法人設立 30 周年及び公益社団法人取得記念式典、近畿地域放射線技師会学術大会などの世話役として、地区委員さんをはじめ多くの会員さんにご協力いただき本当にありがとうございました。今後も西南部地区の組織力を生かし技師会活動を盛り上げていただきたいと思います。地区委員会を中心に、地区委員さんの協力のもと情報収集や広報活動に努めてまいりましたが、連絡方法の課題もあり会員さんにご迷惑をおかけいたしました。今後は技師会全体でメーリングリストの活用など課題解決に取り組んでいきます。最後になりましたが、会務にご協力いただきました会員、地区委員の皆様、理事の方々にあたためまして厚く御礼申し上げます。

【平成 25 年度西南部地区活動年表】

月 日	項 目	内 容
平成 25 年 4 月 15 日	第 1 回地区委員会	7 名参加 (久保田理事・熊井委員含む)
6 月 22 日	全地区委員会 フレッシュ診療放射線技師 の集い	地区委員 4 名参加 20 名参加
9 月 26 日	第 2 回地区委員会	7 名参加 (久保田理事・熊井委員含む)
10 月 26 日	法人設立 30 周年及び 公益社団法人取得記念式典	参加
平成 26 年 2 月 16 日	近畿地域放射線技師会学術大会	実行委員等 12 名参加
3 月 28 日	第 3 回地区委員会	7 名参加 (久保田理事・熊井委員含む)
3 月 30 日	学遊会	7 名参加

両丹地区

両丹地区理事 山添 三知生

おかげさまで、地区理事の 2 年任期を終えることができました。この 2 年間は前任理事、常任理事や会員の皆様のご指導、ご協力をありがとうございました。

今年度の両丹地区の活動ですが、夏季研修会を「静脈注射抜針講習会 北部会場」として、福知山市で開催し、66 名の受講がありました。また、昨年度の研修参加者が少なかった反省を踏まえ、春季研修会は平日夜の開催としました。秋季研修会は北京都 MRI 研究会との合同開催とし、両研修会ともに若干ではありますが、参加者増となったと思います。次年度以降も研修会の演題や参加者の獲得に苦慮すると思いますが、柔軟な発想で研修会を企画していきたいと思っています。

平成 26 年 1 月に「京都府原子力防災訓練」が福知山市で開催され、両丹地区から 5 名参加しました。次年度以降も府内各所で開催されるようです。技師会の社会活動の一環として、積極的に参加していきたいと思っています。

平成 27 年 11 月には、京都府で全国大会が開催されます。新旧役員はもとより、会員の皆様と力を合わせて行っていきたいと思っています。

技師会員減少問題は深刻です。魅力ある技師会活動が出来るよう、協力していきたいです。

【平成 25 年度両丹地区活動年表】

月 日	項 目	内 容
平成 25 年 5 月 11 日	第二回度通常総会	1 名参加
6 月 7 日	平成 25 年度春季研修会	3 演題 22 名参加
9 月 8 日	静脈注射（針刺しを除く）講習会（北部会場） 第 1 回地区委員会開催	66 名参加 4 名参加 オブザーバー 2 名参加
11 月 9 日	平成 25 年度両丹地区秋季研修会 * 第 46 回北京都 MRI 研究会と合同開催 第 2 回地区委員会開催	4 演題 23 名参加 4 名参加
平成 26 年 1 月 25 日	京都府原子力防災訓練（福知山市）	10 名（両丹 5 名）参加
2 月 16 日	平成 25 年度近畿地域放射線技師会学術大会	
3 月 1 日	平成 25 年度両丹地区冬季研修会及び活動報告会	3 演題 16 名参加
3 月 21 日	両丹地区役員引継会（与謝野町内）	9 名参加

受賞者選考委員会

受賞者選考委員会委員長 河本 勲則

平成 25 年度は、(公社) 京都府放射線技師会 法人設立 30 周年及び公益社団法人取得記念式典が平成 25 年 10 月 26 日 (土) にルビノ京都堀川において盛大に開催され、京都府放射線技師会発展と事業推進に多大な貢献をされました会員へ京都府知事表彰 7 名、日本診療放射線技師会会長感謝状 4 名、京都府放射線技師会会長表彰 15 名、京都府放射線技師会会長感謝状 13 社に表彰状が授与されました。心からお祝いを申し上げます。

また、(公社) 日本診療放射線技師会 30 年永年勤続表彰者は 10 名で、第 30 回日本診療放射線技師学術大会 (別府国際コンベンションセンター) にて表彰式が行われます。

平成 25 年度受賞者

京都府知事表彰 7 名

新井 喬	宇治徳洲会病院
上原 秀夫	京都大学医学部附属病院
河本 勲則	京都第二赤十字病院
北村 真	明治国際医療大学附属病院
城下 克明	京丹後市弥栄病院
武部 義行	京都府立医科大学附属病院
中田 博之	三菱京都病院

(公社) 日本診療放射線技師会会長感謝状 4 名

川田 明	第二岡本総合病院
久保田裕一	関西医科大学附属枚方病院
後藤 正	済生会京都府病院
松元 誠	松下記念病院

(公社) 京都府放射線技師会会長表彰 15 名

楡 隆之、丸山 久喜、中井 敬、山本 太郎、石井 彰、池 秀和、
中川 雄介、遠山 景子、古谷 義明、荒本 信之介、三浦 健一、
田中 亮、山本 佐知子、多富 仁文、四丸 真俊

(公益) 京都府放射線技師会会長感謝状 13 社

バイエル薬品株式会社、日本メジフィジックス株式会社、東芝メディカルシステムズ株式会社、株式会社島津製作、島津メディカルシステムズ株式会社、キャノンライフケアソリューションズ株式会社、富士フイルムメディカル株式会社、第一三共株式会社、富士フイルム RI ファーマ株式会社、株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン、シーメンス・ジャパン株式会社、エーザイ株式会社、GE ヘルスケア・ジャパン株式会社

(公社) 日本診療放射線技師会

勤続 30 年表彰者 10 名

岩本登代一	伏見しみず病院
木下 順一	京都大学医学部附属病院
村上 昭彦	綾部市立病院
正者 智昭	京都第二赤十字病院
河本 勲則	京都第二赤十字病院
中西 浩明	京丹後市立大宮診療所
林 万寿夫	大阪医科大学附属病院
崎山 治	
榊本 昭一	舞鶴医誠会病院
糸井 良仁	福知山市民病院

受賞者選考委員会では、関係諸団体からの表彰（個人、団体）の推薦依頼に積極的に候補者を選出して参ります。

また毎年、日本診療放射線技師会勤続表彰者の推薦を行っていますが、申請には履歴書が必要ですので、当技師会より申請のための書類が郵送されました時には、速やかに記入、返送していただきますようお願いいたします。



受賞者選考委員会

河本 勲則	京都第二赤十字病院
轟 英彦	京都府立医科大附属病院
北村 真	明治国際医療大学附属病院
皿谷 弘樹	京都通信病院

庶務報告

庶務理事 皿谷 弘樹

京都府放射線技師会会員数 501 名（平成 26 年 3 月 31 日現在）
内訳：名誉会員 4 名、正会員 470 名、賛助会員 27 社

平成 25 年度異動状況

	H24 年度 会員数 (人)	年間異動状況						H25 年度末 会員数 (人)
		増員会員			減員会員			
		入会	転入	退会	転出	除籍	物故	
名誉会員	5	0	0	0	0	0	1	4
正会員	468	26	3	19	3	4	1	470
賛助会員	29 社	0	0	2	0	0	0	27
計	502	26	3	21	3	4	2	501

平成 25 年度 月別異動状況

	会員異動数						総会員数 (人)
	増員会員			減員会員			
	新入会	再入会	転入	退会	転出	物故	
4 月	5 月理事会が開催されておらず、4 月分の報告はなし						502
5 月	15	0	2	19 + 除籍 4	2	1	493
6 月	6	0	0	1 (賛助)	0	0	498
7 月	8 月理事会が開催されておらず、7 月分の報告はなし						498
8 月	4	0	0	0	0	0	502
9 月	0	0	0	0	0	0	502
10 月	1	0	1	1 (賛助)	0	0	503
11 月	0	0	0	0	0	1	502
12 月	0	0	0	0	0	0	502
1 月	0	0	0	0	1	0	501
2 月	0	0	0	0	0	0	501
3 月	0	0	0	0	0	0	501

* 理事会承認された時点で正式入会となるため、入会申込みを行った日時とは異なります

平成 25 年度年会費月別会費納入者数 (財務委員会)

月	4 月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
H25 年度会費	133	55	39	34	33	14	21	19	22	45	18	4	437 人
H24 年度会費	18	0	16	0	3	0	0	3	2	2	0	1	45 人
H23 年度会費	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3 人
H25 年度累計	133	188	227	261	294	308	329	348	370	415	433	437	

* 日放技から会費振込が報告された人数であり、振込みを行った日時とは異なります

平成 25 年度 役員名簿

役 名	氏 名	勤 務 先
会長	轟 英彦	京都府立医科大学附属病院
副会長	北村 真	明治国際医療大学附属病院
〃	河本 勲則	京都第二赤十字病院
庶務理事	◎ 皿谷 弘樹	京都通信病院
委員	榆 隆之	京都民医連中央病院
〃	吉田 久仁彦	京都地域医療学際研究所附属病院
〃	四丸 真俊	国立病院機構宇多野病院
〃	須藤 安希子	大阪医科大学附属病院
財務理事	◎ 武部 義行	京都府立医科大学附属病院
委員	渡里 弘	京都九条病院
〃	竹澤 正人	大和検診センター
学術理事	◎ 原口 隆志	宇治武田病院
委員	後藤 正	済生会京都府病院
〃	林 浩二	洛和会音羽病院
〃	森永 泉美	大阪医科大学附属病院
〃	四丸 真俊	国立病院機構宇多野病院
〃	丸山 久喜	医療法人真生会 向日回生病院
編集理事	◎ 中島 智也	田辺中央病院
委員	平川 益三	京都第一赤十字病院
広報・渉外理事	◎ 新井 喬	宇治徳洲会病院
委員	三浦 健一	第二岡本総合病院
〃	渡里 弘	京都九条病院
広報・渉外理事(両丹)	城下 克明	京丹後市立弥栄病院
組織調査理事	◎ 久保田 裕一	関西医科大学附属枚方病院
委員	松元 誠	松下記念病院
〃	前田 富美恵	京都市立病院
〃	熊井 由昌	大阪医科大学附属病院
〃	蒲 順之	大島病院
〃	山本 紗知子	関西医科大学附属枚方病院
厚生理事	◎ 中川 稔章	京都府立医科大学附属病院
委員	上原 秀夫	京都大学医学部附属病院
〃	西本 岳	京都第二赤十字病院
〃(囲碁担当)	金津 武弘	自宅
情報理事	◎ 中田 博之	三菱京都病院
委員	多富 仁文	三菱京都病院
〃	城下 克明	京丹後市立病院
管理士理事	◎ 山根 稔教	公立南丹病院
委員	安藤 博敏	
〃	大澤 啓次	済生会京都府病院
〃	田中 亮	清仁会亀岡シミズ病院
〃	小東 靖史	三菱京都病院
監事	田城 邦幸	自宅
〃	四井 猛士	千春会病院

◎ (委員長)

平成 25 年度 地区委員名簿

班名	氏 名	勤 務 先
北地区	古谷 充 (理事)	西陣病院
1	榎本 博	愛寿会同仁病院
2	安藤 公人	京都第二赤十字病院
3	奥野 壮	京都警察病院
4	山田 哲	丸太町病院
5	森川 嘉彦	京都府立医大附属病院
中地区	楡 隆之 (理事)	京都民医連中央病院
1	高屋 晶嘉	京都予防医学センター
2	浅野 昌良	京都通信病院
3	(地区理事代行)	
4	中井 敬	島津製作所附属診療所
5	宮井 明	京都市立病院
東地区	平川 益三	京都第一赤十字病院
1	山本 太郎	京都民医連第二中央病院
2	芝田 達郎	もりした循環器科クリニック
3	長岡 浩平	音羽病院
4	村上 雅之	京都大学医学部附属病院
5	藤川 守	京都第一赤十字病院
西地区	丸山 久喜 (理事)	医療法人真生会向日回生病院
1	石井 彰	高雄病院
2	平井 靖	三菱京都病院
3	池 和秀	京都桂病院
4	後藤 正	済生会京都府病院
5	中川 雄介	公立南丹病院
6	遠山 景子	京都医療科学大学
南地区	渡里 弘 (理事)	京都九条病院
1	河上 和広	十条武田リハビリテーション病院
2	古谷 義明	蘇生会総合病院
3	荒本 信之介	宇治徳洲会病院
4	三浦 健一	第二岡本総合病院
5	大西 孝志	京都医療センター
両丹地区	山添 三知生 (理事)	京都府立医科大学附属 北部医療センター
1	渡辺 重光	福知山市民病院
2	藤原 朗	舞鶴赤十字病院
3	後藤 宏成	京都府立医科大学附属 北部医療センター
西南部地区	松元 誠 (理事)	松下記念病院
1	松本 洋一	大阪医科大学附属病院
2	梶本 光則	関西医科大学附属枚方病院
3	岩木 慎治	枚方公済病院
4	高田 春彦	大阪医科大学附属病院

平成24年度 会長・副会長・理事役員体制

【 三役 】

会長	轟 英彦	京都府立医科大学附属病院
副会長（学術・広報・組織・管理士）	北村 真	明治国際医療大学附属病院
〃（庶務・編集・情報・表彰）	河本 勲則	京都第二赤十字病院

【 常務理事 】

庶務	皿谷 弘樹	京都通信病院
財務	武部 義行	京都府立医科大学附属病院
学術	原口 隆志	宇治武田病院
編集	中島 智也	田辺中央病院
広報・渉外	新井 喬	宇治徳洲会病院
広報・渉外（両丹地区）	城下 克明	京丹後市立弥栄病院
組織調査	久保田 裕一	関西医科大学附属枚方病院
厚生	中川 稔章	京都府立医科大学附属病院
情報	中田 博之	三菱京都病院
管理士	山根 稔教	公立南丹病院
受賞者選考	河本 勲則	京都第二赤十字病院

【 地区理事 】

北地区（厚生）	古谷 充	西陣病院
中地区（庶務）	楡 隆之	京都民医連中央病院
東地区（編集）	平川 益三	京都第一赤十字病院
西地区（学術）	丸山 久喜	医療法人真生会向日回生病院
南地区（財務）	渡里 弘	京都九条病院
両丹地区（学術）	山添 三知生	京都府立医科大学附属北部医療センター
西南部地区（組織調査）	松元 誠	松下記念病院

【 監事 】

田城 邦幸	自宅
四井 猛士	千春会病院

Nemoto



ヴェールを脱いで、
「知の領域」へ。

最先端の造影理論を内蔵した
「考える注入装置」
DUAL SHOT GX7

その注入装置が内蔵したのは、体重入力を重視した最新の造影理論と卓越のインターフェース。理論は、より正確な撮影タイミングを提供し、インターフェースは操作の負担を大きく軽減します。多彩な撮影スキルとより確実な操作性を両立したDUAL SHOT GX7。



DUAL SHOT GX7
CT CONTRAST DELIVERY SYSTEM

株式会社 根本杏林堂
東京都文京区本郷2-27-20 TEL.03-3818-3541
<http://www.nemoto-do.co.jp>



オイパロミン[®]注 300シリンジ150mLが
新しくラインナップに加わりました。

非イオン性尿路・血管造影剤 イオパミドール注射液
処方せん医薬品[※] 薬価基準収載

オイパロミン[®]注
150/300/370/300シリンジ/370シリンジ

非イオン性造影剤 イオヘキソール注射液
処方せん医薬品[※] 薬価基準収載

イオパーク[®]注
300/350/240シリンジ/300シリンジ/350シリンジ

MRI造影剤 ガドベンテ酸ジメグルミン注射液
処方せん医薬品[※] 薬価基準収載

ガドベンテ酸メグルミン静注液
37.14%シリンジ「F」 5mL/10mL/13mL/15mL/20mL

非イオン性MRI造影剤 ガドジアミド水和物注
処方せん医薬品[※] 薬価基準収載

ガドジアミド静注液
32%シリンジ「F」 5mL/10mL/13mL/15mL/20mL

注)：注意一医師等の処方せんにより使用すること。
■効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等につきましては
添付文書をご参照下さい。

ひとりひとりの笑顔に届けたい。

製造販売元
(資料請求先)



富士製薬工業株式会社

〒939-3515
富山県富山市水橋辻ヶ堂1515番地
<http://www.fujipharma.jp/>

2013年4月作成

医師の診断に、経験を超える知識を。

FUJIFILMと静岡がんセンターとの共同研究により、
世界初となる「類似症例検索の新システム」を開発。

人工知能技術を用いた独自の画像処理により、CTスキャン画像を過去の肺がん症例のデータ画像と瞬時に照らし合わせることができるシステム。
世界で初めてX線画像のデジタル化を実現したFUJIFILMだからできたイノベーションが、医師の肺がん診断を強力にサポートします。



類似症例検索システム
SYNAPSE
Case Match

※医用画像情報システム(PACS)上で動作する類似症例検索システムとして世界初。

薬事販売名:富士画像診断ワークステーション FS-V673型(類似症例画像検索機能) 薬事認証番号:第21600BZZ00613000号

販売業者 富士フイルム メディカル株式会社 〒106-0031 東京都港区西麻布2丁目26番30号 富士フイルム西麻布ビル TEL:03-6419-8033(代) <http://fms.fujifilm.co.jp>



MRI用造影剤

薬価基準収載

マグネスコープ® 静注38%シリンジ
10mL・15mL・20mL

Magnescope® iv inj. 38% Syringe

ガドテル酸メグルミン注射液

処方せん医薬品¹⁾

注) 処方せん医薬品: 注意—医師等の処方せんにより使用すること

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌(原則禁忌を含む)および使用上の注意等の詳細につきましては、添付文書をご参照ください。



製造販売元

ゲルベ・ジャパン株式会社 東京都千代田区紀尾井町3番8号
<http://www.guerbet.co.jp/>

販売元(資料請求先)

テルモ株式会社 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目44番1号 <http://www.terumo.co.jp/>

①、TERUMOはテルモ株式会社の登録商標です。

マグネスコープ、Magnescopeはゲルベ・ジャパン株式会社の登録商標です。

DOTAREMはゲルベ社の登録商標です。

© テルモ株式会社 2013年11月

OVAL(楕円形)ガントリが目指したのは、
青空のような広さ。それは、本当の技術力
でしかできない「やさしさ」です。—日立
は見ています。その先のMRI技術。

「画像性能」と「検査環境の快適性」をできる限り高い水準
で両立するため、日立が導き出した答えが「OVAL」という
MRIです。日立の新しい磁場制御技術があったからこそ実現
した、革新的に大きなガントリと高性能アプリケーションが、
新次元のMRIパフォーマンスを届けます。

OVAL

ECHELON

1.5T Ultra Wide Bore MRI

販売名称：日立MRIイメージング装置 ECHELON OVAL 医療機器認証番号：第224ABBZX00041000号



その先に。
きっと
見える。

©株式会社日立メテコ www.hitachi-medical.co.jp

HITACHI
Inspire the Next

イオンチェンバの精度と半導体の手軽さを この1台に ACCU-GOLD



ACCU-GOLDはAGDM型デジタイザーを、パソコンとのUSB接続で使用できるマルチファンクションX線アナライザです。

1台でイオンチェンバ、半導体検出器、mAsセンサーを使用でき、専用マルチセンサーでは線量・線量率・kVp・照射時間・半価層・ろ過の同時測定にも対応します。

豊富なセンサーラインナップで、様々なモダリティ/アプリケーションに対応いたします。また別売チェンバアダプタにより、お手持ちの10X5シリーズ/10X9シリーズイオンチェンバをお使いいただくことも可能です。



AGMS-D型
診断用半導体マルチセンサー



10X6-0.6型
マルチスライスCT用チェンバ



<http://www.toyo-medical.co.jp/> E-mail info@toyo-medical.co.jp

東洋メディック株式会社

本社：〒162-0813 東京都新宿区東五軒町2-13
TEL.(03) 3268-0021 (代表) FAX (03) 3268-0264
大阪支店：〒550-0014 大阪府大阪市西区北堀江1-19-1
TEL.(06) 6535-5741 (代表) FAX (06) 6535-5745
福岡支店：〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵2-2-40
TEL.(092) 482-2022 (代表) FAX (092) 482-2027
支店・営業所：名古屋・札幌・新潟・仙台・岡山

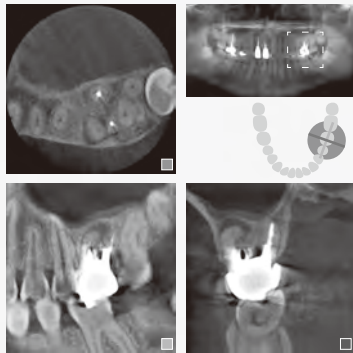
Thinking ahead. Focused on life.



Debut Veraviewepocs 3Df 40e

ベラビュー エポックス

CT撮影、パノラマ撮影、セファロ撮影が1台で可能なVeraviewepocs 3Dfシリーズに、画像の精細さと撮影の簡単さはそのままに、機能を絞ることで低価格化を実現したVeraviewepocs 3Df 40eが新登場。CT撮影はφ40×H40mmとφ40×H80mmの2種類のFOVを選択することができます。



発売 株式会社 モリタ 大阪本社: 大阪府吹田市垂水町3-33-18 〒564-8650 TEL 06-6380-2525 東京本社: 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 TEL 03-3834-6161
製造販売: 製造 株式会社 モリタ製作所 本社工場: 京都府京都市伏見区東浜南町680 〒612-8533 TEL 075-611-2141 久御山工場: 京都府久世郡久御山町市田新珠城190 〒613-0022 TEL 0774-43-7594
販売名: ベラビュー エポックス 標準価格: 3Df-40e 14,800,000円〜(消費税別) 2013年6月21日現在 一般的名称: アナログ式歯科用パノラマ・断層撮影X線診断装置
機器の分類: 管理医療機器(クラスII) 特定保守管理医療機器 医療機器認証番号: 20900BZ200259000
Morita Global Site: www.morita.com

nihon
medi+physics

処方せん医薬品^注
放射性医薬品・脳疾患診断薬

薬価基準収載

ダットスキャン[®] 静注

放射性医薬品基準イオフルバン (¹²³I) 注射液

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること [®]: 登録商標
(症例提供: 順天堂大学医学部附属順天堂医院)

※ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は添付文書をご参照ください。

資料請求先
 **日本メジフィジクス株式会社**
〒136-0075 東京都江東区新砂3丁目4番10号 <http://www.nmp.co.jp/>

製品に関するお問い合わせ先
 0120-07-6941

2013年12月作成

薬価基準収載

消化管の診断に

処方せん医薬品
X線造影剤〈硫酸バリウム製剤〉

パウダー製剤

硫酸バリウム散 99.1%〔共成〕	バリトップHD
ネオバルギンEHD	バリブライトP
ネオバルギンUHD	バリブライトCL
ネオバルギンHD	バリコンクMX
	バリブライトLV

ゾル製剤

バムスターS200	バリトップゾル150
バリトップ120	バリブライトゾル180

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

※注意—医師等の処方せんにより使用すること

からだに届く、安心を。

発売元 **KAIGEN** カイゲンファーマ株式会社

大阪市中央区道修町二丁目5-14〔資料請求先 商品企画部〕
<http://www.kaigen-pharma.co.jp>

※平成25年4月より株式会社カイゲンはカイゲンファーマ株式会社に社名変更いたしました。

医療を支える企業としての使命感を忘れずに
今までもこれからも・・・いつも生命のそばに

<http://www.ishiguro-medical.jp/>



石黒メディカルシステム株式会社

病 医 院 設 備
医 療 機 器
介 護 用 品
有料老人ホーム運営
病 医 院 の 開 業 支 援

京 都 本 社 : 〒612-8412 京都市伏見区竹田中川原町381番地
TEL 075-641-1496 FAX 075-641-0010
大 阪 支 店 : 〒569-1145 大阪府高槻市富田丘町9番5号
TEL 072-696-1496 FAX 072-696-1961
東大阪支店 : 〒577-0012 大阪府東大阪市長田東3丁目3番28号
TEL 06-6747-1496 FAX 06-6747-1497
滋 賀 支 店 : 〒524-0041 滋賀県守山市勝部6丁目4番36号
TEL 077-582-7770 FAX 077-582-7796
奈 良 営 業 所 : 〒639-1124 奈良県大和郡山市馬司町130番地
TEL 0743-23-1496 FAX 0743-23-1497

放射線測定器 校正サービス

放射線測定器の校正はお済みですか？

放射線測定器は、正しい測定値を示すことが求められます。これには放射線測定器の校正が不可欠です。

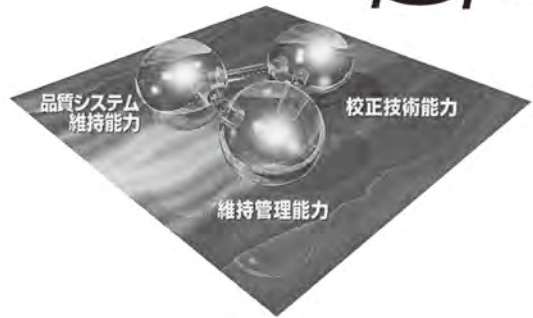
校正には、国家標準とのトレーサビリティが明確になっていることが必要です。放射線測定器は、トレーサビリティが明確な基準に基づく校正を行ってはじめて精度の高い測定が実現します。

国家標準につながる校正サービス。

お客様に「安心と精度」を提供します。

千代田テクノ大洗研究所は、トレーサビリティ制度に基づき放射線の標準供給を行っています。

弊社校正サービスは「維持管理能力」・「校正技術能力」・「品質システム維持能力」が三位一体となって、お客様に「安心と精度」をご提供いたします。



CHIYODA TECHNOLOG CORPORATION

株式会社 千代田テクノル 営業部

〒113-8681 東京都文京区湯島1-7-12 千代田御茶の水ビル
TEL03(3816)1163
www.c-technol.co.jp

全てはお客様のために！

現場を見つめ、最適の商品を。
未来を見つめ、最新の商品を。
医療機器から関連情報サービスまで、
お届けするのがMASUDAの仕事です。

- 医療現場とメーカーを医療システム&情報で結ぶ。
- 信頼の基本は、豊富な品揃えと的確・迅速な対応。
- 最先端の分析機器・理化学機器で研究現場をバックアップ。

医療機器・理化学機器の総合商社

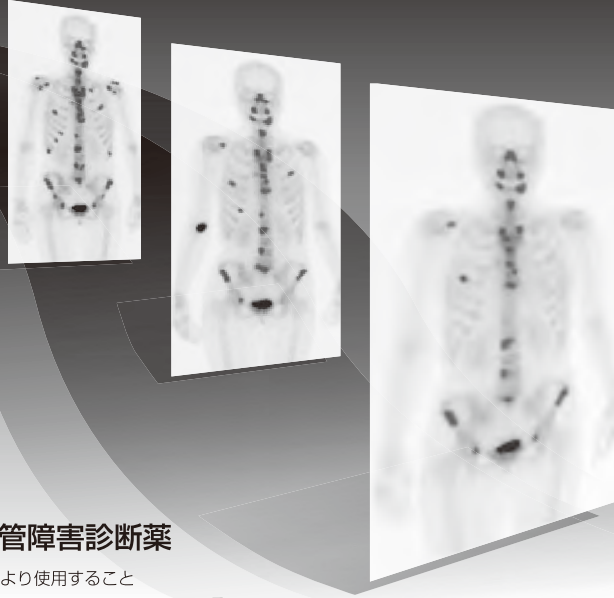


株式会社 増田医科器械

本社 ● 〒612-8443
京都市伏見区竹田藁屋町50番地
TEL (075) 612-7111 FAX (075) 623-7131
http://www.masudaika.co.jp/
E-mail ● info@masudaika.co.jp

滋賀支店 舞鶴支店 福井営業所
敦賀営業所 京丹後営業所
大阪営業所 東大阪営業所

FUJIFILM



放射性医薬品／
骨疾患診断薬・脳腫瘍及び脳血管障害診断薬
処方せん医薬品 注意一医師等の処方せんにより使用すること

テクネ® MDP注射液/キット

放薬基：メチレンジホスホン酸テクネチウム(^{99m}Tc)注射液/注射液 調製用 薬価基準収載

※「効能又は効果」、「用法及び用量」、「使用上の注意」
等については添付文書をご参照下さい。

製造販売元

富士フイルム RIIファーマ株式会社

資料請求先：〒104-0031 東京都中央区京橋2-14-1 兼松ビル
ホームページ：http://fri.fujifilm.co.jp

TEL 03(5250)2620

CXDIワイヤレスシリーズに、 フルサイズモデルが登場。

Canon



デジタルラジオグラフィ

高感度・低線量タイプ

CXDI-401C Wireless Digital Radiography System
認証番号：225ABBZ00140000

デジタルラジオグラフィ

スタンダードタイプ

CXDI-401G Wireless Digital Radiography System
認証番号：225ABBZ00139000

画素サイズ
125×125μm

総画素数
約1,130万画素

高速表示
約2秒以内

フルサイズなのに重さ3.8kg

撮影台にフィットするセンサーフォルム

センサー1枚で様々な撮影に対応



キヤノンライフケアソリューションズ株式会社

大阪府摂津市庄屋1丁目14番12号 ☎(06)6382-3787
東京都文京区湯島2丁目17番4号 ☎(03)3814-4956
本社 / 大阪市中央区農人橋1丁目1番22号 大江ビル9階

●商品に関するお問い合わせは下記まで

札幌(011)736-0010・仙台(022)236-3621・新潟(025)243-6391・さいたま(048)663-2221・彦根(彦根市)(03)3814-7857
神奈川(045)476-2860・名古屋(052)531-6231・京都(075)691-5101・彦根(彦根市)(06)6382-3787・神戸(078)651-2601
岡山(086)232-6721・広島(082)232-1341・山陰(0852)23-2711・福岡(092)472-0241・鹿児島(099)266-3141

<http://www.canon-lcs.co.jp>

個人情報の保護について

(公社)京都府放射線技師会は、会長以下役員・委員一同個人情報についての適切な保護が非常に重要であると認識し、個人情報の保護に努めます。

1. 個人情報の収集に関しては、必要な範囲で個人情報を収集し、当技師会の会員間の情報交換への利用等に努めます。
また、会員本人からの個人情報の開示や修正・更新及び削除等適切な対応を行います。
2. 個人情報の管理に関しては、会員の意思を尊重し個人情報の紛失、破損、改ざん、漏洩等を防止するための適切な安全管理を講じ、予防に努めます。

(公社) 京都府放射線技師会

賛助会員一覧

平成 26 年 3 月 31 日現在

GEヘルスケア・ジャパン株式会社 京都支店	〒612-8414 京都市伏見区竹田段ノ川原町 205	TEL 075-644-1215 FAX 075-644-1220
日立アロカメディカル株式会社 京都営業所	〒615-8221 京都市西京区上桂東ノ口町 182	TEL 075-383-0030 FAX 075-393-7330
コニカミノルタヘルスケア株式会社 京滋サービスステーション	〒603-8063 京都市北区上賀茂今井河原町 10-7	TEL 0570-011-203 FAX 075-705-2060
シーメンス・ジャパン株式会社 京滋営業所	〒604-8171 京都市中京区烏丸通御池下ル虎屋町 577-2 太陽生命御池ビル 5F	TEL 075-757-6900 FAX 075-757-6902
株式会社フィリップスエレクトロニクス スジャパンヘルスケア事業部 京滋北陸ブロック	〒612-8443 京都市伏見区竹田藁屋町 40	TEL 0120-556-494 FAX 075-623-4233
株式会社カイゲンファーマ株式会社 大阪営業所	〒566-0053 大阪府摂津市鳥飼野々 3-2-3	TEL 072-653-4072 FAX 0726-53-4331
株式会社モリタ 京都支店	〒604-8075 京都市中京区麩屋町通三条下ル白壁町 432	TEL 075-241-3131 FAX 075-241-3158
株式会社根本杏林堂 大阪営業所	〒550-0011 大阪府大阪市西区阿波座 1-11-17 西本町有楽ビル 9F	TEL 06-6532-6443 FAX 06-6532-7067
株式会社千代田テクノル 大阪営業所	〒564-0063 大阪府吹田市江坂町 2-1-43 KYUHO 江坂ビル 9F	TEL 06-6369-1565 FAX 06-6368-2057
富士フイルム RI ファーマ株式会社 関西支店	〒564-0063 大阪府吹田市江坂町 1-13-41 NF 江坂ビル 8F	TEL 06-7670-2800 FAX 06-7670-2803
株式会社島津製作所 京都支店 医用機器営業課	〒604-8511 京都市中京区西ノ京桑原町 1	TEL 075-811-9111 FAX 075-811-9491
株式会社日立メディコ 京滋営業所	〒604-0835 京都市中京区御池通間之町東入ル高宮町 206 御池ビル 5F	TEL 075-256-3092 FAX 075-256-1384
キヤノンライフケアソリューションズ 株式会社 京都営業所	〒601-8127 京都市南区上鳥羽北花名町 31	TEL 075-691-5101 FAX 075-691-9786
石黒メディカルシステム株式会社	〒612-8412 京都市伏見区竹田中川原町 381	TEL 075-641-1496 FAX 075-641-0010
第一三共株式会社 京都支店	〒604-0847 京都市中京区烏丸通押小路ノ上ル秋野々町 535 日土地京都ビル 5F	TEL 075-251-1216 FAX 075-251-1259
長瀬ランダウア株式会社 大阪営業所	〒550-8668 大阪市西区新町 1-1-17	TEL 06-6535-2675 FAX 06-6541-0931
島津メディカルシステムズ株式会社 京都営業所	〒604-8445 京都市中京区西ノ京徳大寺町 1 島津製作所 N5 号館 2F	TEL 075-801-3316 FAX 075-841-3334
東芝メディカルシステムズ株式会社 京都支店	〒600-8023 京都市下京区河原町通松原上ル 2 丁目富永町 338	TEL 075-354-9977 FAX 075-354-9955

	京都四条河原町ビル	
ケアストリームヘルス株式会社	〒550-0011 大阪府大阪市西区阿波座 1-9-9 阿波座パークビル 3F	TEL 06-6534-7090 FAX 06-6534-7137
バイエル薬品株式会社 京滋北陸支店	〒530-0001 大阪市北区梅田 2-4-9 ブリーゼタワー30F	TEL 06-6133-6700 FAX 06-6344-2212
日本メジフィジックス株式会社 京都支店	〒614-8159 八幡市上奈良大門 31-17	TEL 075-972-1950 FAX 075-972-2021
富士フィルムメディカル株式会社 京都営業所	〒601-8443 京都市南区西九条東御幸田町 25-1	TEL 075-671-0264 FAX 075-671-0265
富士製薬工業株式会社 大阪支店	〒564-0051 大阪府吹田市豊津町 9-1 パシフィックマークス江坂 6F	TEL 06-6368-2860 FAX 06-6368-2867
伏見製薬株式会社 大阪営業所	〒541-0042 大阪市中央区今橋 3-2-20	TEL 06-6221-5101 FAX 06-6221-5104
堀井薬品工業株式会社 近畿営業所	〒540-0038 大阪市中央区内淡路町 1-2-6	TEL 06-6942-3483 FAX 06-6943-0650
エーザイ株式会社 京都コミュニケーション・オフィス	〒604-8153 京都市中京区烏丸通四条上ル笋町 689 京都御幸ビル 8F	TEL 075-211-2461 FAX 075-211-0904
株式会社増田医科器械	〒612-8443 京都市伏見区竹田藁屋町 50	TEL 075-623-7111 FAX 075-623-7131

〈 編集後記 〉

「平成 25 年度京都府放射線技師会雑誌」が、無事、刊行されました。

京都府放射線技師会は公益法人格を取得して 2 年が経ちます。公益法人には法人税が課税されませんが、それは府民・市民のために活動している団体であるからこそその優遇処置であり、自分本位で活動していると、公益法人格を剥奪されることもあります。ところが、会費を納めていただいている一般会員様からすると、京都府放射線技師会の公益活動など、何の役にもたちません。しかし、この公益活動を行わなくなると、公益法人格がなくなり、法人税を納めなくてはいけなくなり（つまり会費の値上げにつながります）、かつ、役所に対しても発言力や存在価値がなくなります。

原子力災害対策が急務な現在は、そういった分野でも放射線技師会の存在が重要視されるようになり、役所からの依頼で京都府放射線技師会は原子力防災訓練に参加するようになりました。診療放射線技師法違反の新聞記事も度々見かけますが、こういった事例に対しては原因究明や対策を、時には政府や役所、関係団体に要望するなどして対策しています。放射線技師会はそういった「診療放射線技師の立場を守り、発展させる活動」を行っています。これはなかなか会員様の目に入らない活動です。この年間活動報告である「平成 25 年度京都府放射線技師会雑誌」にはそういった活動報告が細かく記載されていますので、ぜひとも目を通していただき、会員の皆様はご自身の納めた会費がどのように使われているのか、一般市民の方は放射線技師会がどのような活動を行っているのかをご確認ください。

最後になりましたが、会員ならびに賛助会員の皆様には、発刊に際して多大なるご尽力を頂きましたことに感謝申し上げます。

編集委員長 中島 智也

公益社団法人 京都府放射線技師会

発行者 轟 英彦

発行所 (公社)京都府放射線技師会

〒604-8472 京都市中京区西ノ京北壺井町 88-1 二条プラザ 1F

TEL&FAX : 075-802-0082

E-mail : kyohogi@mbox.kyoto-inet.or.jp

編集者 中島 智也・河本 勲則

印刷所 山代印刷株式会社



公益社団法人 京都府放射線技師会

〒604-8472 京都市中京区西ノ京北壺井町 88-1 二条プラザ 1F